

橋外三儀名平	鬼頭藤重	市藤原	梶井金三郎	八木重五郎	柴田嘉治	片岡藤三郎	伊藤清太郎	杉村丑太郎	伊藤富次郎	鈴木快一	石原常九郎	福井常三郎	宇佐美兼次郎 後藤忠太郎	山田明	内藤清
リメリ	コロラードフラッシュ	コロラード	アイタホフォールス	同	ユダ州、ガールランド	アキヤンボ	ウオーナツクローヴ	ローダイ	マテナス	アルピソ	ミルピタス	同	同	同	同
麥、大根	砂糖、大根	同	同	同	砂糖、大根、ヘ	果物、葡萄	アスパラガス、野菜	葡萄	果物、葡萄	野菜、ヘ	ヒ	同	同	同	野菜、瓜
一四〇	三五	四二	六〇	三〇	一四〇	六三	七〇	一六〇	七三七	八〇	四〇				

二〇〇
六〇

山本	伊藤	梶浦	外加藤由太郎名	渡邊萬次郎	山下重助	中川庄太郎	金原竹三郎	伊藤吉三郎 鈴木男女吉	金原竹次郎	鈴木松五郎	高木信義 外三	長谷川國太郎	正親町藤吉
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
花	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
五	一〇	一〇	二〇	四〇	二五	四五	二〇	二〇	二〇	五	四〇	五〇	一〇

二〇〇
六〇

姓名	地名	作物	所有地	現金借地	收穫分配
鶴岡英哉	オークランド	花	三		
神谷時松	同	野	1 1/2		
栗田卯吉	同	ト	一		
見田宗隆	パカビル	果	七〇		
河瀬泰次郎	サクラメント	野			
野口初次郎	同	同			
佐藤金次郎	同	同			
佐藤重次郎	同	同			
横井新松	フロリヤ	同			
村上金松	同	同			
伊藤又三郎	同	同			
大鹿林松	同	同			
堀田芳三郎	同	同			
安藤宗五郎	エリカローヴ	同			

姓名	地名	作物	所有地	現金借地	收穫分配
犬飼健三郎	ロッキンフォード	砂糖、大根、ヘー、瓜		八二	
大原徳太郎	同	同			
戸外勝名夫	山中	瓜、ヘー		四〇	
渡邊	同	瓜、砂糖、大根		六〇	
龜岡熊市郎	コロラド	砂糖、大根、ヘー		一〇〇	
加藤	アリゾナ州	野			
伊藤福太郎	中央	リンゴ、莓			
立石甚右衛門	同	同			
浅井佐五郎	同	同			
石川末吉	同	同			
平石幸次郎	同	同			
石川	同	同			
山口伊三郎	同	同			
計	二五八		五五九 1/2	一一、三三八	四、七五五

千九百十三年

(大正二年)

塚田 幸吉	中島 幸吉	山内 慶次郎	加藤 清一	山下 重助	渡邊 萬次郎	加藤 由太郎	伊藤 藤	内藤 清正	山中 中	水谷 中	福井 常三郎	宇佐美 兼太郎	後藤 忠太郎	柴田 嘉治	八木 重五郎	鬼頭 藤重	稻本 儀平
ケリンメード	モネタ	ボルサビーチ	同	同	同	ラーイアル、フライトン	サンテゴ	ブローレ	ランカスター	アルピソ	ミルピタス	ユタ州	同	同	ヒルロース	アイリフ	
セロリ、野菜	野 菜	大根、砂糖、セロリ	同	同	同	野 菜	レモン	瓜	牧	野 菜	野 菜	野 菜	野 菜	同	砂糖、大根	同	
一五	一〇	二二〇	四〇	二〇	二〇	二〇	一〇	四〇	六〇	一六〇	八三〇	四〇	三五	三五	三五	三〇〇	

杉外村 芳名	八木 銀次郎	伊藤 初次郎	南水谷	正親町 慧	松永 善之丞	同 佐一 郎	高木 徳一	鈴木 松五郎	同 松七 一	石川	金原 竹次郎	伊藤 吉三郎	鈴木 男女吉	中川 庄太郎
ペーカスフィールド	マテロ	同	フルーツランド	ウエスト、アダムス	トロピコ	同	パーチット	同	同	同	サンヒトロ	同	同	同
牧 畜	馬鈴薯	葡萄	乳 牛	野 菜	野 菜	野 菜	花	莓	莓	豚 菜	野 菜	同	同	同
四〇	二〇	四〇	二〇	一五	二一	五	四〇	五〇	三〇	五〇	五五	三〇	五〇	五五

姓名	地名	作物	所有耕地	現金借地	收穫分配
嶋飼英哉	オークランド	花	三		
神谷時松	同	野	1 1/2		
栗田卯吉	同	トメト		三〇	
宇佐美兼太郎 外一名	ミルヒタス	ピ		八〇〇	
福井常三郎	アルヒソ	苺、野菜、ヘ		一六〇	
神谷繁雄	ワソソビル	苺		三	
見田隆二道	パカビル	果			
見田宗二	同	物	七〇		
河瀬泰次郎	サクラメント	野		一七	
野口初次郎	同	菜		八	
佐藤金次郎	同	苺		一〇	
横井新松	フロリダ	葡萄	四〇		
伊藤又三郎	同	葡萄			二五
堀田芳三郎		葡萄			四八

姓名	地名	作物	所有耕地	現金借地	收穫分配
水野廣吉	ロッキンホオイト	瓜、ヘ		二〇	
犬飼健三郎	同	砂糖、大根	三〇	一一五	
大原三郎	同	ヘ、ピ、ツ			
加藤大道	アリソナ州	野		一〇	
渡邊藤次郎 外一名	中央 ピアアイトン	麥、馬鈴薯、野菜		一四〇	
平山幸太郎	同	苺、リンゴ	五		
石川健吉	同	同	一〇		
同末吉	同	同	一〇		
山田伊三郎	同	同	一〇	二〇	
立石甚左衛門	同	同	一〇		
淺井佐五郎	同	同	一〇		
伊藤福太郎	同	同	一〇		
計 二五九			一〇五四 1/2	一一三三	五、一一〇

千九百十四年

(大正三年)

服部歌之助	千賀源三	竹島順造	山田勤五郎	山田勤五郎	林島清	岡田代三	青木善三	青木善三	富田三郎	青木三郎	安達三郎	服部三郎	佐藤三郎	石田三郎	伊藤三郎	服部三郎
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

葱、芋、馬鈴薯	同	豆	アニオン	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
---------	---	---	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

三〇九	三三三	一八六	一八六	一八	一八〇	三六〇	三二〇
-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----

八五

北川喜一	若山繁二	佐藤代五郎	佐美左衛門	秋田耕造	寺田三郎	青木三郎	竹島順造	石川十郎	吉田十郎	鈴木太次郎	竹田太次郎	服部太次郎	三浦太次郎	井上光次郎	吉川光次郎	後藤光次郎	山田光次郎	吉田光次郎	原口光次郎	野村光次郎	平野光次郎	加藤光次郎	增加光次郎	伊藤光次郎	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

馬鈴薯、葱、豆	葱、馬鈴薯	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
---------	-------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

三〇	一九〇	一九五	二〇	三八六	三八九
----	-----	-----	----	-----	-----

更に右七年間の在米本縣人發展的累計を括約して表示すれば左の如し

年 度	農 業 家 數	耕 地 面 積			小 計
		所 有	現 金 借 地	收 獲 分 配	
一九〇八	二二六	四二八	四、六二一	五、三三九	一〇、三八八
一九〇九	一一九	三三三	五、四四七	四、八六九	一〇、三四九
一九一〇	一一九	三三二	五、七九八	五、〇五二	一一、一八二
一九一一	一四七	二、六五五	八、七五六	五、〇一〇	一六、四二一
一九一二	二五八	五、五九一 ^{1/2}	一一、二三八	四、七五五	一六、五五二 ^{1/2}
一九一三	二五九	一、〇五四 ^{1/2}	一一、二二三	五、一一〇	一八、三七七 ^{1/2}
一九一四	三〇三	六、五九一 ^{1/2}	一五、四三九	五、〇七五	二一、一七三 ^{1/2}

第二節 現在農業と諸營業

千九百十五年以後に於ける在米本縣人の農業及諸營業は實に驚く可き發展を成せり。農業に於て殊に然りとす。即在米本縣人の策源地なる北部加州の本縣人農業は四五年前より櫻河を溯流し、サター郡及コルサ地方の新開地に發展して米作及豆作に従事する多者く、一方サンオーキン河を溯流し、スタクトン河

下地方の沃土に玉葱及馬鈴薯を栽培する者の多きを見たり。然るに前者は歐州戰亂の影響を受け、食糧品の暴騰したる好機に投じて莫大なる利益を獲得し、後者亦た三四年前に於ける市場の好況に會ひて望外の利純を占めたり。依是本縣人農業家中には玉葱成金、馬鈴薯成金或は豆成金等を續出したるが、夫等成金連がその獲得したる利益を資本として事業を擴張したる爲、千九百十四年度に於ける本縣人耕地面積二萬千餘英加は十九年度に至つて其二倍以上即四萬四千英加に達したり。殊に注目すべきは、夫等の擴張したる耕地が收穫分配耕作にはあらずして悉く現金借地經營なる事、又從來の小規模を大規模に改め、耕耘機及收穫機を購入して馬耕又は人工に代わ、眞乎大農組織に進みたる事なり。又由來米國の農業は市場の變動に伴ふて其の作物に消長あり、作物は決して固定的に執着せず、従つて米國の農業者は耕農に堪能ならざる可からざると同時に商機を觀るに敏なる我が本縣人農業者は常に此に留意するを怠らず。されば最近資本の充實して事業擴張の機運に向ひたる本縣人は比較的危險性なる玉葱又は馬

鈴薯の栽培を放棄して、比較的市價の安全なる豆作及米作を擇ぶ傾向となり、従つて十七年以來玉葱及馬鈴薯の本場なるスタクトン河下地方を棄て、サター郡及びコルサ地方に移住する者多し。

ウォーナツグロヴを中心とする櫻河河下一帯の地は由來本縣人の發源地なるが兩三年前より其附近なるニューホープ。ソートン。サーデン。及ライア島等の各地に本縣人農業の擴張されたる爲同地方の勢力は依然として衰へず。更に最近クラクスバーク地方に豆作業の擴張するあり、十八年度よりグライト。西櫻面郡一帯の地に種物栽培業の人に發展したるあり。殊に櫻河を溯るペロナ。サター。メリデアン。及コルサ地方一帯は豆作米作の著しき發展を見、今や北部加州に於ける本縣人農業家の主力は正に此の方面に傾注されつゝあるが如き觀あり。

桑港及オークランド方面には約百餘名の本縣人が居住せるも、旅館、洗濯業、白人家庭働き及學生等のみ。サンノゼ地方の沿岸各地亦た極めて少なく。中加も同様なりとす。南加は最近稍發展の緒に就きたるも到底北加と日を同うして

論ず可からず。インターマウンテン地方には僅に四五の農業家と労働者とを合せて約百名の本縣人を見るべく。東部諸州は市俄古及紐育に少數の商賈と學生とを合せて約三十名の本縣人あらん。沙港及英領晚香披の兩港には各百五十名位の本縣人在るも極めて消極的生活状態に在り。ポートランド地方には約三十名の本縣人在るべし。

墨西哥國にも數百名の本縣人あり殊に最近南米より流入したる者多きも其消息を密にせず追て調査の上報告すべし

在米本縣人は米國の産業的大勢に鑑みて農本主義に其の發展を圖りつゝあるも、他地方には加州の二大大學に各一名宛の教授を出だし、言論機關としては二個の新聞社と一個の雜誌社とあり。其他所在社會の各方面に活躍しつゝある事は左の表示に依つて之れを推知すべし。

本縣人の農業

千九百十九年五月現在

(△は二ヶ所以上の經營者又は副業者)

(○は妻帯)

(▲は本縣人の借地農園を更に小作せる者故に統計の數に加算せず)

竹島順造	△廣澤楠太郎 外一名	鷺野太	鷺尾由太郎	山田竹次郎	眞野鎌吉	服部歌之助	安井柳吉	星野留次郎	佐藤丑松	竹田岩吉	林義光	横井權左衛門	△鈴木良太郎 安達三郎 富田東五郎
〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇〇	〇〇	〇	〇	〇	〇	〇〇
		一			一		一一	一一	一四	一			
キンケ島葱	同	同	同	同	(以下須市河下) ロバート	ラフエンドレター	同	同	オールドチヨンス	ホールト	同	ニューチヨンス	スミス、ツラクト
	同	アスパラガス、豆	同、同	同、同	豆、玉蜀黍	種物、グリーン	同	同	豆、玉蜀黍	同、同	セロリ種	豆	渡蓼草
五〇〇	二〇〇	一三〇	一五〇	一五〇	八〇〇	二〇〇	二〇〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	五五
							二〇〇				五七		

石塚三次	伊藤米次郎 松川信正	伊藤猶次郎	若江中七郎 山上信一	杉田謙次郎 田中忠一	村上隆成	小川勘十郎	伊藤龜次郎 伊藤龜次郎 垣見兵吉	岡部梅三郎	山田源五郎	稻垣善松	小坂井平之助 小坂井廣助
〇	〇	〇	〇〇	〇	〇	〇	〇〇	〇	〇	〇	〇
	一		一	一	一	一	二二	一	一	一	一
アイルトン	同	同	ア	同	同	同	同	同	同	同	同
同	アスパラガス	豆、種物	アスパラガス	アスパラガス	同	アスパラガス	豆、種物	果物、豆	アスパラガス	同	同
二〇〇	一四〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
	四〇〇	六〇〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	一八〇	一七〇	一七〇	一五〇	一四〇

林伊十郎	△服部歌之助	△服部歌之助	若山謙次郎	若林廣一	桑山孫四郎	加藤喜太郎	鈴木徳次郎	林伊十郎	大野一正	後藤常吉	鈴木玉次郎	花井捨吉	服部伊三郎	青木三郎	林慶次郎	秋田輝光
			○					○	○	○	○	○	○	○	○	○
								二	一	一	一			二	三	二
同			同	同	同			キ	同	同	同	同	同	同	同	同
	マクドナルト	ノッパ、ホード						ヤ								
葱、馬鈴薯	馬鈴薯	同、同	同、同	豆、葱	同、同			葱、馬鈴薯	葱	同、馬鈴薯	葱	豆、玉蜀黍	豆、馬鈴薯	豆、馬鈴薯	葱、馬鈴薯	豆、馬鈴薯
二五〇	二二五	四〇〇	三五〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇		二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	三六七	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
								▲二〇〇	▲二〇〇	▲二〇〇	▲三六七		▲三〇〇	▲三〇〇	▲三〇〇	

吉川瀧三郎	△服部歌之助	佐藤多十郎	小川増太郎	三輪時次郎	後藤善太郎	加藤新七郎	加藤清七郎	森仲太郎	△渡邊國太郎	恒田嘉助	恒田宗次郎	若松圓之助	吉川光次郎	恒川倉吉	小村萬次郎	村上金松
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
一			五			一			二	二	一	一	一	一	一	三
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
				ホーランド						種物、豆		シマ、ツラクト				
葱	豆、玉蜀黍	葱	豆、馬鈴薯	豆、馬鈴薯	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
三六七	四〇〇	四〇〇	三〇〇	四〇〇	三〇〇	三〇〇	四〇〇	三〇〇	四〇〇	二五〇	一五〇	▲二五〇	▲二五〇	▲二五〇	▲二五〇	▲五〇〇
▲三〇〇	▲三〇〇	▲三〇〇	▲三〇〇	▲三〇〇	▲三〇〇	▲三〇〇	▲三〇〇	▲三〇〇	▲三〇〇	▲二五〇	▲一五〇	▲二五〇	▲二五〇	▲二五〇	▲二五〇	▲五〇〇

若山善助	○	二	同	葱	一五〇	一五
後藤庄五郎	〇〇	一一	ターラック	蕃茄	一五〇	
入木愛四郎	〇〇	一一	スターラック	蕃茄	一五〇	
桑山次郎	〇〇	一一	スターラック	蕃茄	一五〇	
後藤孫次郎	〇〇	一一	スターラック	蕃茄	一五〇	
△河邊國太郎	〇		スタクトン	渡菘草	三〇	
河邊三郎	〇		スタクトン	渡菘草	三〇	
西川一藏	〇		マンドビル	葱	七〇	四五
外名吉	〇		マンドビル	葱	七〇	
見田隆二	〇〇	一	パカビル	果物	八〇〇	
見田宗二	〇〇	一	パカビル	果物	八〇〇	
宇佐美兼次郎	〇		ミルピタス	ビ	一〇〇	
若山孫次郎	〇		サンオン	種物	一〇〇	
伊藤初次郎	〇		中加マテラ	葡萄	一三〇	一六〇
八木銀次郎	〇		同、同	同		
八木竹次郎	〇		同、同	同		
柴田嘉治	〇	一	ガイラント	砂糖大根、牧神	一四〇	
八木重五郎	〇		同、同	砂糖大根	九〇	
竹島健造	〇		同、同	砂糖大根	四〇	

鬼頭藤重	〇	八〇	コロフィド州	同	一六〇
犬飼健三郎	〇	三〇	ブラッシユ	同	
黒宮松次郎	〇	三〇	ロツキーホド	同	
山内健之助	〇	二七〇	スウヰンダ	果物、豆	
水野廣吉	〇	四〇	同	牧畜	
加藤鐵次郎	〇	四〇	同	砂糖、大根	
杉山定一	〇	四〇	アイタホ州	同	
計〔農園數二〇五 農業者數二九一〕	一七八	一九一			
農業者及家族總計	六六〇				
右耕地總面積四萬三千九百八十六英加を日本反別（壹英加は約四反十四步）に換算すれば壹萬七千七百九十九町步餘にして、我が愛知縣にては知多愛知二郡の田地總面積に匹敵し内所有地壹千九百四十五英加は七百八十七町步餘にして名古屋市所屬田地總面積に概當す。更に現金借地參萬壹千八百九十三英加は	一九四五	三、八九三	一〇、一四八		
耕地面積總計	四三、九八六				

壹萬二千九百六町餘歩にして知多丹羽二郡の田地總面積に恰當せり。此の意義に於て我が愛知縣の北米移民は農業方面のみにて知多愛知二郡の米作に匹敵する新開地を得たりと言ふを得べし。

又十八年度に於ける全加州の農産高は約五億弗なるが、之れを全加州の既墾農園約一千二百萬英加に配當すれば一英加約四十二弗弱に該當す。然るに同年度に於ける日本人の農産高は約五千五百萬弗なりしを以て之れを日本人の耕地三十九萬餘英加に配當すれば一英加約百四十一弗強に當れり。是れ全州平均の場合には劣等地多く、日本人經營の農園は悉く最上級の土地のみを占め、加ふるに日本人は農事に卓越なる技能を有するが故なり。勿論本縣人經營の土地も最上級に屬し、農業的手腕に至つては本縣人獨特の技能を有するが故に收穫高に於ては常に他縣人に優越す。されど此處には一般邦人農産高の平均數に準じ一英加の農産高一百四十一弗と假定して計上すれば、現在本縣人經營の耕地總面積四萬三千九百八十六英加（土地所有及收穫分配耕作も一括して）の農産高は六百二十餘萬弗の數字を示し。幾ど我が愛知縣産業の誇とせる養蠶業の總收

額に該當するにあらずや。されど現在に於ける加州邦人は土地所有權無きが故に高率なる借地料を支拂はざるべからざるのみならず勞働賃銀亦高し、今其の收支を概算すれば農産高の二割五分を借地料とし、四割を耕農賃金に、二割を收穫及收穫物包裝費に、七分五厘を維持費及食料等に充てざる可からず。爾かく控除したる剩餘の七分五厘が純益にして僅に四十六萬五千弗のみ。之れを三百の農業者に配當すれば一人僅に千五百五十弗宛の配當を得るに過ぎず。

最後に特筆すべきは前表に示す如く本縣人の農業が個人經營よりも共同經營の多き事なり。此は小資本を合せて大資本と爲す文明的産業法に適し在米十萬の邦人勞働者を含む中其の人數を府縣別にすれば第五位に在る本縣人が、耕地面積に於て一割一分強を占むる所以のもの是在り。蓋し北米愛知縣人會を在米邦人中の模範的團體と稱し、在米本縣人が奈何なる場合にも共同一致する事は常に他縣人の羨望する所にして、此和衷共同の美風が斯かる産業的方面に美果を成したるに外ならざるなり。

在米本縣人の諸職業及諸營業

千九百十九年五月現在

△は同業者にして統計數に加算せず

名稱	身分	姓名	妻	子	所	在	地
スタンフォード大學教授	▲教師及教役者	市橋 俊	○		1019 EMERSON ST., PALO ALTO, CALIF., U.S.A.		
加州々立大學講師		久能芳太郎	○		1184 ARCH ST., BERKELEY, "		
トビンゲストーン基督教會主任		藤井慈龍	○		P. O. BOX 108 LIVINGSTON, "		
櫻府日報社	▲新聞、雜誌社	水谷萬嶽	○		318 M ST., SACRAMENTO, "		
格州時事社		市川藤市			1930 J LAWRENCE ST., DENVER, "		
市俄古公論社		吉田豊吉			P. O. BOX 660 CHICAGO, ILL., "		
渡邊齒科院	▲醫院	渡邊信吉	○		229 S. EL DORADO ST., STOCKTON, CALIF., "		
前田醫院		前田愛那			P. O. BOX 155 WALNUT GROVE, CALIF., "		
瀧藤小川商店	▲會社、商店	瀧藤治三郎			327 W. MEDISON ST., CHICAGO, ILL., "		
總都農産者市場		廣澤楠太郎	○		416 I ST., SACRAMENTO, CALIF., "		

名稱	身分	姓名	妻	子	所	在	地
佐藤靴店	靴商	佐藤政太郎	○	三	1370 4TH ST.,		
船橋商會	食料品及鳥商	大鹿 一名	○		1209 "		
愛知商會	食料雜貨	水谷政右衛門	○	一	P. O. BOX A WALNUT GROVE, "		
淺井兄弟商會	食料雜貨	淺井金次郎	○	一	" 155 "		
若山商店	食料雜貨	若山榮次郎	○	一	" 197 "		
野口靴店	靴商	野口百太郎	○	一	" 203 "		
樓臺商會	食料雜貨	住田竹次郎	○	二	36 N. MAIN ST., LODI, "		
東洋商會	同	梶田庄太郎	○	二	248 S. EL DORADO ST., STOCKTON, "		
伊藤商店	同	伊藤新次郎	○		127 "		
水谷商店	同	水谷京次郎	○		P. O. BOX 554 KINGSBURG, "		
高須商店	小間物、書籍	高須松吉			" "		
新世界櫻府支社	▲支店、代理事務、仲買人	服部利三郎	○	一	325 1/2 M ST., SACRAMENTO, "		
櫻府日報桑港支社	本社桑港に在り	鈴木三四郎	○	三	1731 BUCHANAN ST., SAN FRANCISCO, "		
鈴木病傷保險事務所	ユニオン保險會社代理人	鈴木貞太郎	○	二	129 S. EL DORADO ST., STOCKTON, "		
伊藤仲買店	農産物仲買商	伊藤敏吉	○	二	127 "		

ミカド、ホテル	ホテル業	宇佐美 源次郎	○	1734	POST ST., SAN FRANCISCO, "
イースタン、ホテル	同	後藤盛太郎	○	1118	3RD ST., SACRAMENTO, "
日本館	同	石垣文次郎	○	1227 1/2	4TH ST, " "
千鳥館	同	山田政彦	○	1304 1/2	" " " "
愛知館	旅館業	石塚善三郎	○	二	P, O, BOX 33 WALNUT GROVE, "
丸一館	同	市野式三郎	○	"	226 " " "
若山ルーミング	貸問業	若山角三郎	○	"	26 " " "
⊕ 旅館	旅館業	佐藤重次郎	○	"	11 LOCKE, " "
須市ホテル	ホテル業	恒川繁太郎	○	124	E. MARKET ST., STOCKTON, "
豊明館	ホテル業	△鈴木良太郎	○	129	S. EL. DORADO ST., STOCKTON, "
尾張屋	同	野田四郎	○	20	W. LA FAYETTE ST., " "
八千代館	貸問業	矢野政次郎	○	304	S. CENTRAL ST., " "
小杉ルーミング	同	小杉イメ	×	327	S. EL. CORADO ST., " "
日の出洗濯所	▲洗濯業	岡本四郎	○	三	331 M ST., SACRAMENTO, "
	西洋洗濯業				

オハヨイ洗濯所	同	山口甚七	○	1	2340 SHATTUCK AVE., BERKELEY, "	
フルトン洗濯所	同	岡本文作	○	二	2200 FULLTON ST., " "	
井戸田商店	▲菓水店、玉揚	酒類、水物、玉樂揚	井戸田才次郎		P, O, BOX 223 WALNUT GROVE, "	
津坂菓水店	アイスクリイム	アイスクリイム	津坂清次郎	○	126 " " "	
横井商店	アイスクリイム	菓子、煙草	横井六左衛門	"	157 " " "	
服部菓水店	同	同	服部孝俊	○	二	25 E. MARKET ST., STOCKTON, "
伊藤菓水店	アイスクリイム	煙草、玉樂揚	伊藤京三郎	○	1	1120 3RD ST., SACRAMENTO, "
小澤玉揚	球戯場	球戯場	小澤徳次郎		360	MAIN ST., BOISE, IDAHO, "
センター魚店	▲魚類肉類店	▲魚類肉類店				
東京肉店	鮮魚類	鮮魚類	河合義一		248	S. CENTER ST., STOCKTON, "
櫻木魚店	肉類	肉類	吉田嘉十郎	○	二	25 E. LA FAYETTE ST., " "
朝日亭	▲飲食店	▲飲食店	櫻木鶴吉		ホ州	
	日本料理	日本料理	山田千松			P. O. Box 11 WALNUT GROVE, "

春日亭	同	渡邊要三郎	261	
都亭	支那料理	伊藤常十郎	22	
港壽司	日本料理	中村	37 E. LAFAVETTE ST., STOCKTON,	
八千久	日本料理	次野榮吉	44 E. WASHINGTON ST.,	
柏屋	同	三輪庄五郎	117 E. LAFAVETTE ST.,	
八千久	同	猪飼清十郎	321 M ST., SACRAMENTO,	
愛知屋	同	猪飼政次郎	307	
六華亭	同	青木式三郎	934 CHINA ALLEY, FRESNO,	
東洋軒	日本料理	伊藤謙太郎	1848 ARAPAHOE ST., DENVER, COLO.,	
桑港運送會社	▲運送業及ステイチ	米津彌吉	1635 LAGUNA ST., SAN FRANCISCO, CALIF.,	
鈴川運送店	同	鈴川己之吉	1620	
村上ステイチ	自動車ステイチ	村上泰三郎	46 S. MADISON ST., STOCKTON,	
家庭寫真館	▲寫真館、畜工及建築業	高木	1309A 4TH ST., SACRAMENTO,	

千賀畫房	繪畫意匠	千賀可仙	1815 SUTTER ST., SAN FRANCISCO,
波邊畫房	同	波邊幸五郎	124 E. MERCET ST., STOCKTON,
川口建築請負所	建築業	川口吉次郎	P. O. Box 155 WALNUT GROVE,
明三床	▲理髮業	寺尾金次郎	1218 1/2 4TH ST., SACRAMENTO,
市野床	同	市野丑藏	P. O. Box 197 WALNUT GROVE,
祖父江床	同	祖父江伊久次	174
若山床	同	若山重次郎	7 LOCKE,
服部床	同	服部徳次郎	209 S. EL TORADO ST., STOCKTON,
松の湯	▲湯屋業	△市野丑藏	P. O. Box 197 WALNUT GROVE,
わか湯	同	△若山角三郎	26
若山洗身房	西洋風呂	△若山重次郎	7 LOCKE,
計			七一 五二五一

職業、營業別及經營者、家族統計表

職業、營業別	個數	經營者	妻	子供
教師及教役者	三	三	三	一
新聞雜誌社	三	三	一	一
醫院	二	二	一	一
會社、商店	一三	二	一	一
支店、代理事務所	四	四	一	一
ホテル、旅館業	一三	二	四	八
洗濯業	三	三	二	九
菓水店、玉場	六	五	三	六
魚店、肉店	三	二	一	三
飲食店	一〇	一〇	七	二
運送業及ステーヂ	三	三	三	七
寫眞館、畫房、建築業	四	四	一	一
理髮業	五	五	四	一
湯屋業	三	三	一	五

計 七五 七一 五二 五一 一七四

南加羅府は加州首府櫻面都市を南に距る約五百哩の地に在り、都會としては太平洋沿岸中柔港に亞ぐ繁華を有するも、郊外に於ける日本人農業としては北部加州の如く發達せず。羅府を中心として南加一帶の地に現住せる本縣人は男女子供を合せて約二百五十名なるが、其内獨立事業を營みつゝある者は左表に示す四十九名なり。然るに南北の距離遠く又總ての事情を異にするが故に同地方の本縣人は去千九百九年前に南加愛知縣人會なるものを立て、同地方本縣人を統一指導しつゝあり、又櫻府なる北米愛知縣人會とは常に氣脈を通じ、南北相呼應して在米本縣人の發展を圖りつゝあり。

南加愛知縣人事業家一覽

職業別	姓名	職業別	姓名
齒科醫	倉田 虎三	小問的雜貨商	淺井 岩次郎
食料雜貨商	加古 得哉	保險代理業	森 欽郎
陶器商	菊谷 利三郎	グロサリー商	速水 甚吾
		グロサリー商	丸山 茂敏
		醫師	村瀬 正和
		食品魚業	中川 八郎

運送業	岡本清六	果物商	恒川仙右衛門	理髮業	加藤綱五郎
魚行商	嶋川藤吉	花卉栽培業	堀場勲市	旅館業	溝口初次郎
花卉栽培業	井戸田白兵衛	旅館業	下田森太郎	野菜栽培業	山内慶次
割烹店	青木治太郎	菓子製造業	橋本柳三郎	同	市川清四
洋食店	菊地立元	西洋洗濯業	倉橋寛一	同	長谷川 國太郎
印刷業	廣田康治	同	木村爲次郎	同	石田 樹吉
同	芳賀京次	同	中根小一郎	同	榑田德次郎
同	中島 一	同	岡本 源作	同	近藤實太郎
煙草店	堀田道亨	寫真業	岩田玉三郎	同	加藤銀造
貸自動車業	中野健太郎	甜瓜栽培業	内藤清正	同	中島幸七
植木業	川上淺吉	セロリ栽培業	玉谷勇三郎	同	鈴木臺次郎
蹄鐵工場	神藤武一	甘蔗栽培業	渡邊萬次郎	同	塚田 徳松
搾乳業	南谷喜市	野菜栽培業	木下豊次郎	同	山田 深七
野菜栽培業	山崎角次郎			計	四九

前記農業者、諸營業を總括的に表示すれば左の如し。

種別	事業家	家族	計
農業	二九一	一七八	六六〇
諸營業	七一	五二	一七四
南加事業家	四九	不明	四九
計	四一一	二四二	八八三
事業家	四一一	二四二	八八三
在米本縣人概計	千九百十九年五月現在		
各事業家其他	男	妻	計
北加地方	四一一	二四二	八八三
南加地方	二〇〇	三五	二五五
中加地方	二〇〇	二〇	二二〇
桑港、王府地方	一〇〇	一〇〇	二〇〇
イニターマウンテン地方	一〇〇	一〇〇	二〇〇
東部諸州	三〇	一〇〇	一三〇
沙、港地方	一五〇	一〇〇	二五〇

晚香坡地方	一五〇	一	一	一五〇
ポートランド地方	三〇	一	一	三〇
計	一、三九一	二六五	二六二	一、九一八

註、前項農業表、諸營業表及北加地方在住本縣人統計は本會にて調査したるもの故正確に庶幾し次に南加地方の分は本年三月南加愛知縣人會にて發行したる同會々報記念號に依りたるもの、他は總て大體の概算に過ぎざれば必ずしも正確を保し難し

第五章 北米愛知縣人會

第一節 北米愛知縣人會沿革史

千八百八十九年を以て其端を開きたる我が愛知縣人の北米移民は、爾後七箇年を閲したる千八百九十六年の交、加州の首府櫻面都市を中心とし其近郊に約三百名の移住者を見たり。然るに當時在米日本人一般の生活狀態極めて幼稚なる時代にて、現代の如き一定の土地に定業を營む者少なく、その多くは宛も水草を逐ふ遊牧の民の如く轉々として隨處に就働する勞働者なり。旅館の如きも日本人の經營に係かるものは現代の如き設備無く、只僅に夫等勞働者の合宿所

たりしに過ぎず。彼等は大日本帝國と大書して日本より携帶したる柳行李を轉々隨處に背負ひ歩き、各自所有せる寢具ブランケット一卷の外には身を横へて勞苦を醫する安息所も無し。斯かる境遇に在る彼等は一朝不幸病災死亡等に處するに一大困難を感じたり。又當時加州の行政は極めて放漫の時代なりしに扨て我が在米同胞社會も亦た之を統一指導するの機關を有せず。然るに放縱にして慰藉無き者は頓て荒みて疎暴となるが常なれば、當時一般同胞間の氣風は荒涼極りなく乱暴至らざる無く、一盞のクラレットは彼等のためには無上の慰藉となり酔狂殺傷は尋常の茶飯事たりしなり。されば前者に對しては安息所を設けて一朝の不幸に處する共濟的機關の必要あり、後者に對しては之が團體的防衛策の施こさるゝもの無かるべからず。斯かる境遇の必然的要求として團體成立の機運は促されたり。

一、創立當時の概況

千八百九十五年山田芳男の發起にて加州首府櫻面都に愛知俱樂部なるものを組織し、數十弗の創立費を投じて數十名の會員を募集し、會費は月額十五仙に

て専ら同縣人の統一を圖り共濟を目的としたりしが或事情のために蹉跌を來して不成立に歸したり。

當時櫻府市内に居住したる本縣人としては水谷領三郎、水谷増太郎、淺井健次郎、柴田嘉治、淺井安太郎、水野要次郎、竹島健次郎、伊藤丈太郎、鶴見末次郎、伊藤鎌次郎、橋本常次郎、鶴見富士、野口百太郎、川口吉次郎の十四名にて白人家庭に料理人、又はスクールボーイとして就働し、附近の農園には住田秀次郎、八木貞次郎、伊藤八百三郎の三名働き居たり。彼等は異境に淋しき孤獨の境遇に在れば、同郷者同志が相會して打語らふを無上の慰藉とし無上の楽しみとなし居たり。其頃櫻府第三街千二百二十一番地に和歌山縣人白山資一郎の經營せる櫻屋旅館（今の益城屋）といふあり、主人白山が俠氣に富める世話好にて、又同旅館に尾張名物の餛飩打として働ける伊藤丈太郎あり、川口吉次郎も亦た同旅館に定宿し居たる等が縁故となりて、彼等同郷者の唯一の會合所たりしが、千八百九十六年の夏、會々川口吉次郎が二三の同郷者と會同せる際假初の話題が素となりて、同旅館内に有志俱樂部なるものを起せり、此俱樂部は

單に時々茶話會を開く位を目的とし、月額十仙の會費を徴したり。然るに前記の水谷領三郎、水谷増太郎、淺井健次郎、野口百太郎、鶴見富士、鶴見末次郎、水野要次郎、竹島健次郎、伊藤丈太郎、橋本常次郎、八木貞次郎、住田秀次郎、伊藤八百三郎及川口吉次郎の十四名は悉く之に加入せり。されど未だ團體といふ程のものにあらざれば別に纏りたる會則も無く、只水谷領三郎を擧げて庶務を司掌せしめ、會計一名を附したりき。尋いて同年末メリケン河畔なるハツプ栽培業ボス鬼頭榮三郎、水谷銀次郎等之れに賛成し、部下のボーイに加入の勸誘を爲したるあり。之れと前後して和歌山縣出身者間に和歌山同志會なるもの組織されたるなど、夫等内外の刺激が愈々團體組織の機運を促したり。越えて千八百九十七年一月前記有志俱樂部の人々主動となり櫻屋旅館内に團體組織の相談會を開き、水谷領三郎、伊藤丈太郎、水谷増太郎、野口百太郎、竹島健次郎、淺井健次郎、伊藤鎌次郎、水野要次郎、住田秀次郎、小笠原兵次郎の十名出席して全會一致之れを可決し、愛知俱樂部と命名して假事務所を櫻屋旅館第一號室に置けり。愛知俱樂部の規定書は和歌山同志會の會則に依りて淺井健

次郎の起草したるものなれども今は傳らず、其の要旨は愛知縣人としての體面を維持し、道德を重んじ親睦を圖り、苦樂を共にして將來の發展を期するに在りたり。會費は一ヶ月十五仙と定め、部員にして一朝病災等の不幸に罹り、醫藥の料に窮したる場合には本人の希望に依りて其の金員を俱樂部にて立替へ、全快の後本人又は親戚より返金する事、葬式費の如きも俱樂部より立替ふる事あり之等の場合には同村出身者が返金の責任を負ふ事とせり。斯くして同年三月七日前記事務所に發會式を擧げ、役員としては幹事、會計、書記各一名を置く事となし、推薦に依りて幹事に淺井健次郎、會計に伊藤丈太郎、書記に小笠原兵次郎就任したり。

二、その發展と經營難

發會式を擧げてより、各地に手を分けて第一回部員の募集運動を爲したるが、當時本縣人は首府櫻面都市を中心としてフォルナム街道筋、河下地方及アキヤンポールの三箇地方に亘り約三百名許り居住し居たり、而してフォルナム街道筋は野口百太郎、水野要次郎、鶴見末次郎の三名を派して勧誘の衝に當らしめし

に、當時メリケン河畔の日本人ボムとして知られたる鬼頭榮三郎、水谷銀次郎、服部某等奮つて募集員の運動を扶けて好成績を擧ぐ、河下地方は水谷増太郎、川口吉次郎、淺井健次郎の三名出張し、鶴見藤四郎、角山喜三郎等大に之を援く。更にアキヤンポール地方は伊藤丈太郎、竹島健次郎、橋本常次郎の三名之を擔當し、同地方の有力者伊藤鞍吉の奔走に依りて多數の部員を得たり。斯くして第一回募集運動に八十餘名の部員を得、更に第二回の募集を爲したる結果部員總數百四十餘名に及べり。於是同年八月第二日曜日を下し、創立第一回部員總會を櫻府に開會したるが、同總會にては會費の外別に部員の葬式費として部員より月額五十仙を準備金として積立つる事を決議し、更に幹部員の外若干名の評議員及地方委員を擧げて積極的發展策を決議したり。

千八百九十八年より千九百六年に至る約七八年間は本會に取つて最も波瀾曲折の多き時代なりしも之れを徵すべき記録の存するもの無し。當時本會のため殆ど献身的に努力したる長谷川房治郎が本會々報第二號に寄書したるものを左に抄録して此間の聯絡を取ることとせん。

千九百十八年(明治三十一年)一月一日第二回定時總會を開催して前半季の事務報告及び會計報告をなしたる後、事務所狹隘につき移轉するか又は他の方法を執る事を決議し、所有主に交渉して遂にエム街三〇九の三寶旅館の二階二室を一ヶ月金二弗の契約にて借入れ、同所に事務所を移轉しました。其の翌月であつたと思ひます。館主は當分の内奥の一室を使用し度き故臨時に貸して呉れとの申出であり、又本會にても會員の滞櫻者少なき時なりし故必要の際は何時にても返戻する約束にて館主へ貸したのでした。處が追々夏季となつて會員の滞櫻者多くなり、爲めに前記の一室が必要になつた故館主へ返戻方を申出せしに、館主三寶氏は無法にも一室を二弗にて貸したので二室を二弗で貸したのではないとの直答に淺井幹事及他の数名館主に談判したるも要領を得ず、不得止館主の義弟田原豊水氏に事の顛末を告げし所同氏は开は誠に氣の毒な事なりとて館主の無法を糺し本會へ詫びたる故、茲に和解を爲し、以前の如く二室を使用して居りました處へ又一つの困難が湧いて來たと云ふのはアキャンホー地方の會員が或る感情の行違ひから大部分退會届を出す云ふ羽目になつたので、本會の維持上重大なる件ですから同年六月五日事務所に於て本會の臨時總會を開催する事となり、當日出席したる諸君は

淺井健次郎、 水谷領三郎、 水谷増太郎、 伊藤丈太郎、 鶴見末次郎

野口百太郎、 水野要次郎、 住田秀次郎、 竹島健三郎、 橋木常助

長谷川 宇三郎、 長谷川 房次郎

氏等外兩三名でした。席上先づ三寶氏の事件を報告したる後、議事に入り會費の徵集困難にして現下七弗程の不足金あり、到底此儘にては維持困難なる故一先づ解散して時機を見計ひ再び設立するに若かずとの悲觀説出でたるに、野口百太郎氏は憤然として起ち今此の俱樂部を解散せば他縣人への聞へもあり、且つは愛知の二字を蕩すものなり、諸君に於て不賛成者あらば私は私一人にて本會を維持せんと述べたれば、出席者諸氏も其意を壯なりとし本會を繼續するに決し維持方法に就て甲論乙駁火花を散らし、討議の結果會員募集會費徵集に各自盡力すべき事に決し散會したのは翌日の午前三時頃でした。當時の役員は一日の定期總會で選舉した。

幹事 淺井健次郎、 會計 水谷領三郎、 書記 小笠原兵次郎
氏等でありました。

其後兩三日にして事務所を第二街と第三街との間でエム街とエン街アーリーの一家屋を一ヶ月金五弗の家賃で借入れて移轉しました。一方又會費の徵集には淺井幹事が極力奔走して成功し、斯くて焦眉の急を救つたのでした。私は十度ハノブスの摘探時期の八月に櫻府に出で、諸君と共に極力會員の募集に盡力しました結果、お蔭で僅か七十

有餘名の會員であつたのが三倍以上の増加を見ました。私は其の年冬より幹部の一人として事務に執筆し、あらゆる手段を講じて會員の募集に竭め、遂に六百有餘名の會員數と成りました。

其後は唯春夏二季に定期總會を開催するのみで何の波乱もなく滑かに進みました。千九百一一年(明治三十四年)一月の定期總會に於て有給事務員を置くの決議を爲し、茲に初めて専任書記の任命を見ました、手當として月十五弗を支給したのでした。

同年の七月私は事務上の關係から辭任してフランスノ地方へ轉地し、約二年限同地に居住して相變らず彼地に於ける同縣人の入會を勧誘して居りました、其間は淺井安太郎氏や野口惣八氏等が書記として盡瘁して居られた様でした。

千九百三年(明治三十六年)春私は再び歸郷してパークキンスの某ハツプス園に居ると恰度同年七月四日の定期總會に際して書記問題に就て一の紛擾が起り掛つたのです、其の紛擾の原因と云ふのは同年の春シヤトル地方より流れ込みし杉浦某なる者(同人は其後婦女誘拐詐欺取財等の嫌疑にてシヤトルより桑港へ巨りて大事件を惹起せり杉浦は海部郡津島町の出身にて、後合衆國移民官より日本へ送還され現に神太に在りといふ)本會の事務員の職を自身執つて代らんとし、會員間に大運動を開始し、事務員任命問題に就て會員間に二派に分れて總會場へ列席したのでありました、愈々議事に移り

事務報告、會計報告の結果に依れば差引殘金四仙にして而かも新聞廣告料七弗未拂の儘とありました、次で役員の選舉に移り

部長 淺井健次郎、

副部長 長谷川房次郎

會計 鶴飼欽二、

會計 神谷幸平

の諸氏でした、問題の事務員選舉は投票の結果

當選 長谷川房次郎、

次點 杉浦某、

次點 水谷才次郎

と云ふ順で私が當選しましたけれど私は事業上の關係と、後のツラアルを憂ひて辭任致したのでした、吉田公輝氏外兩三名の人が是非にとの事で遂承諾し、私は水谷才次郎氏を私の代理として事務一切を執つて貰ひました。

同年十月でした、會員築山才一氏が岐阜縣人戸谷某の爲めに重傷を負ひ、其善後策講究の爲めウオーナツカローヴに於て臨時總會を開催し、加害者戸谷某捕縛に努むるに決し、同人の寫眞を數百枚復寫して沿岸警察署へ送り其の捕縛に便したのでした、が遠く逃れたものと見へて未だに姿を顯はしません

千九百四年(明治三十七年)一月の定期總會では之れと云ふ議案も、なく事務、會計の報告に次で役員の選舉に移りましたが其の結果は

部長 淺井健次郎、

副部長 鶴飼欽二

會計 神谷幸平、 會計 水谷領三郎、 事務員 水谷才次郎
 の諸氏で事務員水谷才次郎氏事業上の都合にて八木君一氏が一切の事務を執つて居
 られたと思ふ。
 同年七月四日の定期總會も左したる議題もなく談笑の裡に役員の選舉を終りました
 其の結果は

- 部長 水谷領三郎、 副部長 長谷川房次郎
 會計 鶴岡欽二、 會計 神谷幸平、 事務員 八木君一

氏等でした、
 同年偶發しました日露戦役の軍資金懸募の議が在米邦人間に起り、我が櫻府も有志者
 諸氏の發起するありて募集に着手したのでした、處が何時しか有志者間に二派に分れ
 て暗闘するに至りました、一は報國義會(獨立派、竹寄氏一派)にして他は桑港と共同(竹岡
 氏一派)にして孰れを是とし何れを非とするに由なく、遂に臨時總會を開催して會員の
 意態を諮りたるに是非の論續出して決せず、私は獨立派に反對して本縣人は本會に於
 て取扱ひ直接桑港報國會へ向け送附する事に決議し、其旨新聞紙へ廣告したのでした、
 夫れより少し後の事でしたが時の領事上野季三郎氏は懇々來櫻せられて淺井部長長
 谷川副部長、水谷事務員の三名に懇談の筋あれば至急日本町旭亭へ來れとの案内があ

りましたが、淺井部長は農園に私げ川下地方へ出張して居りましたから事務員水谷才
 次郎氏一人のみ出席して領事に面會しました、用向と云ふのは本縣人會の行動は是と
 するも出來得べくんば櫻府報國會と共同して盡力して貰ひたいとの事でしたが、水谷
 事務員は即答せず其意を諒して退出しました、其後淺井部長は用向にて駒田商店へ立
 寄りしに、領事館より至急出頭せられたしとの電話でしたから淺井部長即刻領事館へ
 出頭せしに前記の要點を懇談的に要求せられたれど淺井部長は總會に於て決議せし
 事なればとて一應協議の餘地を残して私へ相談がありましたから私も斯くなる上は
 無理にも反對するは不可なりと認め、其旨事務員水谷才次郎氏へ通知し遂に櫻府報
 國會と共同にて募集する事となりました云々

三、積弊刷新と創立十週年祝賀會

部員五百名を有し邦人社會の一大勢力として重視されたる我が愛知俱樂部も、
 内部積弊の蟠る在りて着實なる同縣人事業家の近ぶかざる傾向となりしかば、
 千九百六年七月の定期總會に於て内部の積弊を刷新せんことを決議し、加藤永
 三郎を事務に擧げ、水谷万嶽副部長を辭して顧問となり、着實なる地方農業家
 を評議員に推薦して従來の積弊を一掃し、大に廓清の實を擧げて内外の面目を

一新したり。

千九百十七年十一月櫻面都市に創立十週年の祝賀會を舉行す、其の盛大なりし事は櫻面都邦人社會に於ける空前の事として今尙ほ人口に遺れり。

千九百十年十一月愛知縣丹羽郡出身なる海軍少將八代六郎が、帝國練習艦隊司令官として雄姿堂々桑港金門灣に入るや、我が愛知俱樂部は幹事横江利三郎を代表者として同艦に派し、司令官に面して歓迎の宴を開き、一般將卒に贈るに果物十數箱を以てせり、八代司令官は左の一書を送りて謝意を表せり

拜啓 今般練習艦隊桑港寄港に就ては御心に掛けさせられ林檎十二箱隊員一同へ御寄贈被下難有頂戴仕候御懇情の段深く御禮申上儀先は右御禮申速度如斯に御座候

敬具

明治四十三年十一月廿六日

練習艦隊司令官

八代六郎

愛知俱樂部御中

千九百十二年一月五日に開會したる本會第二十八回定期總會には(一)從來の愛知俱樂部を北米愛知縣人會と改稱する事(二)本會幹事は從來定期總會の公選によ

りたるを幹部役員會の推薦に依りて定むる事(三)櫻府日報社員森田小六郎を故國衆議院議員次期の總選舉に議員候補者として本會より推薦し逐鹿場裡に後援を爲す事の三件を決議し之を實行したり。同年九月廿六日東京電報が日本に暴風雨起り殊に愛知縣下には多數の死傷者を出し近來稀なる慘狀を極めたりと報ずるや常に愛郷心深き在米本縣人は驚愕措くところを知らず會長淺井龜次郎は直に檄を會員間に飛ばして同三十日臨時會員總會を開き夫等縣下罹災者を賑恤するため在米本縣人間に寄附金を募集する事を決議し井月ならずして金五千四百七十圓餘を醜集し愛知縣知事深野一三に送致したり。

千九百十三年十一月廿七日北部加州日本人母國觀光團を引率して桑港を解纜したる本會々員櫻府日報社長水谷万嶽を本會代表者として愛知縣知事に會見し在米本縣人の生活狀態、本會の沿革及現狀並に會員の事業狀態等を細大報告して愛知縣廳と本會との聯絡を圖り又嘗て縣下暴風雨の際罹災者へ賑恤金を送りたる件につき同知事に交渉せしむる事を依頼したり。

千九百十四年一月五日本會第三十回定期總會を櫻府本部に開き同十八日河下

支部に臨時總會を開きて本會に貯蓄組合を設立する事を決議したり同年二月十八日本會代表者水谷萬嶽は愛知縣廳に松井知事と會見して本會より依頼したる件を交渉し賑恤金に就ては去年十一月廿七日附を以て既に賞勳局へ其手續と了し金盃を下賜さるゝ事に内定せりと松井知事の聲明あり其旨別に松井知事より本會に宛てたる書面と愛知縣發行（非賣品）の愛知寫真帖、愛知縣治一斑、愛知縣統計書、愛知縣商品陳列館要覽、同英文書、愛知縣農會報、愛知縣紀要等各一部を齎して水谷萬嶽は同年四月本會へ復命したるが、果然其翌五月八日の官報は愈々賞勳局より本會に對し右賑恤金に對する行賞として金盃壹個を下賜さるゝ旨報じたり。同金盃は追て桑港駐劄帝國領事館を經由して本會へ拜受したり。

千九百十五年一月十日に開會したる本會第三十一回定期總會に於て豫て本會と縁故ある森田小六郎、清水市太郎兩氏を同年三月廿五日に行はるゝ衆議院議員總選舉に議員候補者として推薦し其の後援會を設けて縣下選舉有權者へ推薦狀を送る事を決議したり。同年五月廿九日愛知縣理事官原口晃來訪す蓋し在米

本縣人生活狀態視察のためなり。依て同三十日本會々長大野吉五郎以下幹部役員一行原口理事官を河下地方に案内し同地方に於ける本縣人の事業狀態を巡視せしめ、翌十月一日は原口理事官と本會幹部員とが愛知縣廳と本會との諸般聯絡條項に關し懇談したり。（第六章第一節參照）

千九百十六年一月九日に開會したる本會第三十二回定期總會に於て同年十一月十二日（日曜日）本會創立二十週年祝賀會を舉行し金盃拜受式を行ふ事を決議し及祝賀會記念として菊版五百頁以上の在米愛知縣人發展誌を發行する事を決議したり。同年十一月十二日豫定の如く櫻府帝國ホールに本會創立二十週年祝賀會及金盃拜受式を舉行す。餘興は角力、煙火、歌舞伎演劇にて櫻府邦人社會空前の殷盛を極めたり。翌十三日、豫て本會が各地の教會に徴して調査したる在米本縣人先亡者百十四名のため櫻府佛教會にて追悼法會を營み、同日午時各邦人團體代表者新聞記者八十餘名を菊水亭に招じて祝賀の筵を張り。同夜櫻府佛教會内に本會臨時總會を開きて母國愛知縣に在米愛知縣人後援會を設立する事を決議したり。

千九百十七年一月本會第三十三回定期總會に於て毎年定期總會の翌日在米本縣人先亡者のために追弔法會を櫻府佛教會内に營むことを決議し又同一月以來幹事水谷才次郎の努力に依り婦人部の擴張を圖り多數婦人會員を得たり。同三月本會内に主として妊婦又は兒女の病症患者を收容するを目的として愛知養生院を設立したり。

千九百十八年一月本會第三十四回定期總會にて豫ての宿題たる育英事業を母國縣下に起す事を實行着手する事と、本年冬季本會主催の下に母國觀光團を組織し同郷者が隊を成して母國を訪問する事を決議したり。育英事業は資本金五萬圓の利子にて縣下貧家の子弟に中等教育より高等教育を受けしむる目的として資本金は一般在米愛知縣人間より募集す、之れを在米愛知縣人獎學基金と稱し財團法人として愛知縣知事を總裁とし、愛知縣廳内に置くものとす。寄附金は二月募集に着手し三月一日米貨金千六百弗を正金銀行桑港支店經由にて愛知縣理事官原口晃宛に郵送したり。七月本會々員櫻府日報社長水谷萬嶽が歸國するを好機として會長大野吉五郎は幹部役員會議に諮り豫て幹部に一任された

る前記獎學基金財團法人組織の事を愛知縣知事に謀る件、千九百十六年十一月十三日臨時總會の決議に依る母國縣下に在米愛知縣人後援會を設立する件及び本會の現状並に會員の發展狀態等を講演又は新聞等の通信機關を通して運動する事等右水谷萬嶽を本會代表者として依頼したり。九月六日水谷萬嶽は本會代表者として愛知縣廳に松井知事を訪問して本會の依頼したる使命の趣旨を同知事に具伸したるに知事は本會の希望を諒として之に快諾を與へ、且つ部下に内命を下したる結果海部郡には海部郡海外殖民協會組織され中島郡には中島郡海外殖民後援會なるもの組織され、又在米愛知縣人獎學基金財團法人組織の件は松井知事總裁たる事に快諾を與へ、法人組織の手續中に在り、母國觀光團は爾後合衆國政府が戦時の取締上出國者を嚴制したるために其の實行を延期したり。

本會は創立當初約七年間は淺井健次郎の努力に依つて漸くその基を開き。長谷川辰次郎の前後十有餘年間に亘る献身的の努力によりて次第に隆盛に赴き更に大野吉五郎、水谷清重、山田菊次郎以下數十名が本會の要衝に立ちて會の發達に貢献したるによりて愈々其基礎を確立せり。故に會としては永く此の功績

一九一〇	一九〇九	一九〇八	一九〇七	一九〇六	一九〇五	一九〇四	一九〇三	一九〇二	一九〇一
後半期	前半期	後半期	前半期	後半期	前半期	後半期	前半期	後半期	前半期
淺井龜次郎	淺井龜次郎	淺井龜次郎	淺井龜次郎	淺井龜次郎	淺井龜次郎	淺井龜次郎	淺井龜次郎	淺井龜次郎	淺井龜次郎
橫井助太郎	橫井助太郎	橫井助太郎	橫井助太郎	橫井助太郎	橫井助太郎	橫井助太郎	橫井助太郎	橫井助太郎	橫井助太郎
佐藤政次郎	大野吉五郎	大野吉五郎	大野吉五郎	大野吉五郎	大野吉五郎	大野吉五郎	大野吉五郎	大野吉五郎	大野吉五郎
長谷川房次郎	長谷川房次郎	長谷川房次郎	長谷川房次郎	長谷川房次郎	長谷川房次郎	長谷川房次郎	長谷川房次郎	長谷川房次郎	長谷川房次郎
鈴木政太郎	鈴木政太郎	鈴木政太郎	鈴木政太郎	鈴木政太郎	鈴木政太郎	鈴木政太郎	鈴木政太郎	鈴木政太郎	鈴木政太郎
神谷幸平	神谷幸平	神谷幸平	神谷幸平	神谷幸平	神谷幸平	神谷幸平	神谷幸平	神谷幸平	神谷幸平
淺井龜次郎	淺井龜次郎	淺井龜次郎	淺井龜次郎	淺井龜次郎	淺井龜次郎	淺井龜次郎	淺井龜次郎	淺井龜次郎	淺井龜次郎
橫江利三郎	橫江利三郎	橫江利三郎	橫江利三郎	橫江利三郎	橫江利三郎	橫江利三郎	橫江利三郎	橫江利三郎	橫江利三郎
鈴木政太郎	鈴木政太郎	鈴木政太郎	鈴木政太郎	鈴木政太郎	鈴木政太郎	鈴木政太郎	鈴木政太郎	鈴木政太郎	鈴木政太郎
豬飼清十郎	豬飼清十郎	豬飼清十郎	豬飼清十郎	豬飼清十郎	豬飼清十郎	豬飼清十郎	豬飼清十郎	豬飼清十郎	豬飼清十郎
八木君一	八木君一	八木君一	八木君一	八木君一	八木君一	八木君一	八木君一	八木君一	八木君一

一九一四	一九一三	一九一二	一九一一
淺井龜次郎	淺井龜次郎	淺井龜次郎	淺井龜次郎
大野吉五郎	堀田鎌次郎	堀田鎌次郎	堀田鎌次郎
堀田鎌次郎	大野吉五郎	大野吉五郎	大野吉五郎
近藤慎一	近藤慎一	近藤慎一	近藤慎一
若山繁二	若山繁二	若山繁二	若山繁二
伊藤鞍吉	伊藤鞍吉	伊藤鞍吉	伊藤鞍吉
服部利三郎	服部利三郎	服部利三郎	服部利三郎
八木初三郎	八木初三郎	八木初三郎	八木初三郎
水谷政右衛門	水谷政右衛門	水谷政右衛門	水谷政右衛門
大橋麻道	大橋麻道	大橋麻道	大橋麻道
鈴木政太郎	鈴木政太郎	鈴木政太郎	鈴木政太郎
神谷幸平	神谷幸平	神谷幸平	神谷幸平
濱田松次郎	濱田松次郎	濱田松次郎	濱田松次郎
近藤慎一	近藤慎一	近藤慎一	近藤慎一
神谷幸平	神谷幸平	神谷幸平	神谷幸平
伊藤京三郎	伊藤京三郎	伊藤京三郎	伊藤京三郎
杉村良雄	杉村良雄	杉村良雄	杉村良雄

一九一五

大野吉五郎

堀田鎌次郎

近藤 慎一
佐藤嘉四郎

横井助太郎
長谷川房次郎
八木初三郎
浅井龜次郎

大橋 廊道

一九一六

横井助太郎

堀田鎌次郎

近藤 慎一
佐藤嘉四郎

服部利三郎
若松梅太郎
浅井龜次郎
大野吉五郎
水谷 萬嶽
服部利三郎

大橋 廓道

一九一七

大野吉五郎

廣澤楠太郎

水谷 清重
佐藤嘉四郎

若松梅太郎
堀田鎌次郎
鈴木徳次郎
水谷 萬嶽
服部利三郎

水谷才次郎

一九一八

大野吉五郎

廣澤楠太郎

水谷 清重
佐藤嘉四郎

佐藤 綱一
河原 良雄
水谷才次郎

一九一九

若松梅太郎

堀田鎌次郎

大野吉五郎
廣澤楠太郎

横井助太郎
水谷 清重
水谷 萬嶽
山田菊次郎
佐藤嘉四郎

濱田 徳一

本會の一九一九年度参事員、地方支部長及評議員左の如し

参事員

浅井龜次郎、水谷増太郎、杉本常松、伊藤常次郎、北川喜一郎、石垣宗十郎
八木初三郎、服部利三郎、渡邊國次郎、生田見壽、水谷才次郎、

地方支部長

河下支部長 水谷政右衛門、ローダイ支部長 住田竹次郎、スタクトン支部
長 伊藤鞍吉、桑港支部長 宇佐美源次郎

評議員

野口泰三郎、住田秀次郎、小川勘十郎、八木貞次郎、服部庄五郎、日比野丈太郎、祖父江松次郎、加藤伊三郎、市野式三郎、佐藤政太郎、八木慶次郎、佐藤助三郎、若山繁二、市野丑藏、野口庄五郎、伊藤鎮吉、間野定吉、後藤盛太郎、阿部悦次郎、平野倉次郎、長谷川房次郎、室田兼次郎、山内壽三郎、野口廣吉、黒宮松次郎、山田鎌次郎、梅村國治、若山榮次郎、伊藤兼吉、村上悦次郎、桑子由太郎、杉本忠一、渡邊清吉、石原常九郎、内田辰次郎、鷺津、伊藤猶次郎、伊藤留吉、大野初五郎、恒川繁太郎、服部孝俊、前田竹次郎（現在會員約五百名）

北米愛知縣人會々則

第一章 名稱、組織、位置

第一條 本會は愛知縣人會と稱す

第二條 本會は米國在留の愛知縣人及同志を以て組織す

第三條 本會は本部を櫻府に置き支部を「ウオーナッグローヴ」「ローダイ」「スタクトン」及び桑港の四個所に置く

第二章 目的

第四條 本會々員は相互の親睦を旨とし人格を高め道義を重んじ愛知縣人たるの體面を維持するを以て目的とす

第三章 方法

第五條 本會の目的を達するために本條以下の方法を設く

第六條 會員にして疾病治療費に窮したる者ある場合には本人の望みに依り幹部の承認を得て金圓を貸附し又は親族知己等の無き重症患者には適當の看護人を附す

但貸附したる金圓は全快後直に返済すべきものとす

第七條 會員にして不時の災害に罹りたる場合には本會は之に相當の保護を與ふ

但被保護者は總て本會の指揮命令に従ふべし或は命令に従はず又は第三者を介したる場合には斷然保護を與へず

第八條 本會は會員にして疾病のために歸國する重症患者へ補助として金參十弗を與ふ

但醫師の診斷を経て幹部の承認したる者に限る

第四章 會員

第九條 本會の趣旨に賛同し本會の會員たらんことを望む者は其の原籍姓名を詳記し本會々員二名以上の保證人連署を以て本會々長に宛て願出づべし

第十條 會員は本會へ對し本會則の範圍内に於て本會々員たるの權利を有す但他縣出身者は被選舉權無きものとす

第十一條 會員は本會則第六章規定の會費及び準備金を前納すべきものとす

第十二條 會員は常に其の住所を本會へ届置くべし又絶えず本會の利害に關する事情を本會へ通知すべきものとす

第十三條 會員にして退會せんとする者は其理由を詳記して會長宛に本會へ届

出づ可し

第十四條 會員にして本會の趣旨に悖り或は本會の體面を傷けたる場合には會長及幹事は好意的に忠告し猶ほ聽かざるときは評議員の決議に依りて除名し其理由を新聞紙上に廣告すべし

但除名處分は出席者三分の二以上の同意を要す

第十五條 會員にして死亡したる者ある場合にはその最寄りの評議員より直に本會又は支部へ通告すべきものとす

第十六條 會員の葬式費は本會にて之を辯す

死亡者一名の葬式費は金壹百弗とす

第十七條 會員の葬式は櫻府に於て執行す

但特別の事故ある場合には此の限にあらず

第五章 役員

第十八條 本會には左の役員を置き諸般の會務を處理す

會長一名 副會長一名 會計二名 會計監查役五名 幹事一名 參

事員十二名 地方支部長四名 評議員若干名

第十九條 會長以下幹部役員は定期總會の公選とし参事員、評議員、地方支部長及び幹事は幹部會に於て推薦す總て選舉投票同數得點者は抽籤法に依て定む

第二十條 會長は本會を代表し總理す

第二十一條 副會長は會長を補佐す

第二十二條 會計は本會の財政を司掌し會計監査役は會計を監督す

第二十三條 幹事は本會日常一切の事務を執掌し地方集金に従事す

第二十四條 参事員は幹部會に參與して本會の要務を協議す

第二十五條 地方支部長は其の所轄地方會員に關する事務を執り本部の便宜を圖るものとす

第二十六條 評議員は評議員會に於て本會諸般の事を議定し其の地方に於ける會員を監督す又會員中に出來事のある場合には其旨直に本部へ通知すべきものとす

第二十七條

各役員はその召集されたる役員會及び總會には必ず出席すべし若し止を得ざる事故のために欠席する場合には其の地方に於ける會員の意嚮又は議案等を本會へ發送すべきものとす

第二十八條

本會役員は歸朝の外辭任するを得ず欠員を生じたる場合には次點者を推し又は役員會の選舉に依りて之を補ふ

第二十九條

本會役員は總て名譽を重んじ一般會員の模範たる可く又本會の隆盛を圖る可きものとす

第六章 會計、會費、準備金

第三十條

本會の財政は會費を以て經常費に充て準備金を以て葬式費及び疾病歸國者の補助費に充つ

第三十一條

本會は本會則第十一條に準じ會員より會費として毎月金五十仙を徴集す

第三十二條

會費一ヶ年以上滞納者は本會々員たるの資格を失ふ者とす

第三十三條

準備金二回分以上滞納したる者の死亡したる場合には本會は其の葬

第卅四條

式費の幾分をも支給せざるものとす疾病歸國者に支給する補助金亦た之に準ず
止むを得ざる事故のために會費又は準備金を納むるに延期を望む者は其の理由を詳記して本部へ願出づ可し其の理由にして正當と認めたる場合には之に相當の猶豫を興ふ事あるべし

第七章 集會

第卅五條

本會の集會を定期總會、臨時總會、幹部會及び評議員會の四とす

第卅六條

定期總會は毎年一月第二日曜日之を開く但時期に依りては變更する事を得

第卅七條

臨時總會は臨時緊急事の起りて會員に諮問を要する場合之を開く

第卅八條

幹部會及評議員會は必要の都度之を開く

第卅九條

集會は總て出席者の多少に拘らず午後一時より開會す議事は出席者の多數説に決す

第四十條

本會則は定期總會の決議に依りて修正し又は變更することを得

但出席者三分の二以上の同意を要す

第二節 本會の事業

第一款 本會事業の精神

本會は我が在米愛知縣人が北米の野に移住したる當初、轉々として水草を逐ふ遊牧的移民時代に於て同縣人間の親睦を旨とし道義を重んじ相依り相扶けて北米合衆國法治の下に愛知縣人たるの體面を維持するを目的として起りたるもの、爾來年を閲すること二十有三年、或は此間時勢の推移に應じて其の形式に多少の變更はありたるも、會則第二章第四條に示す本會存立の精神は創立以來二十有三年を一貫して現在の隆盛に至るも依然として何等字句の修正を加へず。乃ち本會は政治又は經濟とは全然没交渉にして只郷党の社交的團體たるなり。嘗て政友會所屬清水市太郎と中正會所屬森田小六郎の兩氏を衆議院議員總選舉の際同時に後援したる事あり。是れ政治的意義に於ては矛盾も甚しく寧ろ其の意義を成さず。されど本會が兩氏に後援したる所以のものは全然政治的意義にあらず。兩氏ともに本會と深き縁故の在るあり。敢て政党政派を問はず社交的好

意を以て兩氏の成功を援けたるに過ぎず。又貯蓄獎勵を名として本會内に金融機關を設けたる事あるもその本會の精神に戻り弊害の虞あるを見るや直に之を撤したり。要するに本會の事業は本會存立の精神なる本會々則の範圍を出ず或は本會の精神に基きて郷里に對する愛郷的社會事業位に止まるのみ。乃ち本會の事業としては本會の目的を達する爲の手段又は本會の精神を發揮する本會當然の義務的行爲に止まりて他に吹聴するに足る程の事一も無し。斯かる意義に於ける本會が創立以來爲したる仕事の二三を本會の事業として以下之を記述せん

第二款 創立以來の功績

遊牧的移民時代に同胞間の社會的最難事としたるは病人と葬式なり。日本人旅館すら無き此の時代には先づ病軀を寄するに家無し、白人經營の病院は在りたるも當時生活程度の低き日本移民の經濟狀態より打算すれば病院費の高きに堪はず、葬式費の如きも最下等の取扱にて六七十弗を要したり。然るに當時の勞働賃金は現代の三分の一にも足らず、即盛夏繁農期に於て日給壹弗を平均と

し冬季は就働口稀なり、従つて一般勞働者に貯金の餘裕無く況んや渡米後日尙ほ淺き新來者をや、されば一朝病氣に罹りて貯金無き者は友人間にて共濟し、不幸死亡したる場合には一般同胞間に奉加帳を廻はし義捐金を募集して葬式を執行したり。千八百九十四年海部郡落合出身若松勇三郎なる者が花村某のために入違にて殺害されたるを和歌山縣の遊人川崎某の俠氣に依りて其の骨を拾はれたる事あり。當時同郷者はその腑甲斐無きを嘆き愛知縣人の一大耻辱として今に至るも本縣人間の口碑に傳はれり。或は此事が本會創立者中一部の動機たりといふ者あり。

斯かる境遇の時代に創立されたる我が愛知縣人會としては、會則第三章第五條より第八條に至る會員の病災を共濟する事及第四章第十五條より第十七條に至る會員の葬式を執行する事が本會設立の趣旨眼目たりしなり、然るに一般在米本縣人が産業的に發達して其の生計上病院費又は葬式費に窮する者の無き現代に在りても尙ほ依然として此の會則を改めざる所以の者は經濟的にあらず情義的なり。即一家團欒の如き同郷者會員が苦樂を共にする美風を踏襲して本會

々員の葬式は如何なる生活程度の人にも本會が喪主となりて葬儀を執行す。其の費用は會則第十六條に示す如く金百弗を本會より支出して一切を辨す、遺族又は友人の希望に依りて本會規定以上の高價なる棺柩を用ゐ又は齋筵費の嵩む等の場合に於ける費用超過金は當然其の希望者たる遺族又は友人の負擔として會員よりは一切香奠を受けず。

斯くして本會創立以來の我が在米愛知縣人は如何なる不幸者を出したる場合にも決して他縣人間に奉加帳を廻はさず半錢の義捐金をも仰ぎたる事無し。是れ本會が本會存立の精神を完うし會則第二章第四條の所謂愛知縣人たるの體面を維持し得たりとして聊か本會の安んずる所なり。

其他我が在米愛知縣人が帝國領事館に請證明書以外の手数を煩はす事の比較的に少なき事、例へば放漫にして故國の行政を顧みざる者又は故國實家に音信を通せざる者のために領事館が斷わす新聞に掲載しつゝある尋人廣告名簿中に愛知縣人の稀なるが如きは是なり、之亦た我が在米愛知縣人の統一機關たる本會の在るを想はしむ。

第三款 金 杯 下 賜

千九百十二年九月廿六日東京電報が日本に暴風雨起り愛知縣下には多數の死傷者を出し近來稀なる慘狀を極めたりと報するや常に愛郷心深き我が在米愛知縣人は驚愕措くどころを知らず本會々々長淺井龜次郎は直に檄を飛ばして同三十日會員總會を開き愛知縣水害救濟會なるものを組織して在米愛知縣人間に寄附金を募集し夫等縣下の罹災者を賑恤する事を決議したるが、臨時總會開會の日より四十五日目の十一月十四日附を以て櫻府日報紙上に左の報告書を發表した

愛知縣水害救濟會決算報告

▲収入の部

一金貳千七百八十四弗五十仙

計金貳千七百八十四弗五十仙

▲支出の部

一金拾六弗七十五仙

總募集金高

印刷費

一金九弗參十五仙
 一金拾 弗
 一金貳拾弗
 一金貳千六百弗
 一金百貳十八弗四拾仙
 計金貳千七百八十四弗五十仙

雜 費
 幹事出張費
 櫻府日報廣告料
 第一回送金
 第二回送金

右之通りに御座候也

千九百十二年十一月十二日

愛知縣人會

右二回送金の貳千七百貳十八弗四十仙は換算して五千四百七十壹圓餘となり之れを時の愛知縣知事深野一三宛に送致したるが、右決算報告書に注目すべきは募集金高の割合し募集費の少額なる事と宏褻二百餘哩に亘る片田舎にのみ散在せる本縣人間に募集したる仕事としては比較的募集期間の短き事となり。募集費の少額なるは其の方法を主として印刷物及新聞廣告に依りたるに因し、募集期間短くして克く這般の成功を收め得たるは、本會が一朝有事の際傳令の迅速

を圖る設備として各地に支部又は評議員を配置して不紊に統一的訓練を爲し居るが爲なり。

深野知事は前記二回の送金に對し二回とも一片の領收證書を本會へ致せるのみにて、罹災者に對する該金員の處分法又は捐金者に對する領收證交附等の事につきては年餘に亘りて數回の交渉を爲したるも一回の回答だに無し、爾後程經て縣下に大疑獄突發し深野知事以下固圍の人となり縣會計課長高橋某が宰死したる等の事を新愛知紙上の記事にて知り遂に愛知縣廳の信を置く能はざるかを思ひ千九百十三年十月その調査を新愛知社に依頼したるが、同年十一月廿七日の新愛知紙上に左の記事を見たり。

廳務緩漫の一例

……在米縣人の同情を無視す……

行政整理、事務簡捷の聲は絶わす聽く所なるにも拘らず、事實に於て決して行はれて居らず、殊に愛知縣に於ては其甚しきを見んとす、左に掲ぐる一例の如きも其最も甚しきものにして如何に廳務が澁滞しつゝありや、將又如何

に廳吏が怠漫なるやを知るに足らん。一昨年九月愛知縣附近を中心として大暴風雨あり、此時米國サクラメントに在る愛知縣出身の同胞より成る愛知縣人會は、右暴風雨の電報に接するや、祖國同胞の不幸を默視する能はずとし、直に見舞金の醜集を開始し、一ヶ月以内の短時日に於て五千四百圓を得之れを愛知縣に送致し來りたる事は當時被害民の深く其好意に對し感謝措く能はざる所にして、而して在米縣人が如何に克く和合し如何に克く協同一致せるやを遺憾無く表明するものとし、在米愛知縣人會の態度を賞揚して止まざりしものなるが、然るに此に奇々怪々なるは右の義金に對し、愛知縣は一ヶ年餘を経過せる今日に於て、尙ほ賞狀とか賞杯とかいふものを在米愛知縣人會に向つて送附せざる事なり、在米愛知縣人會に在つては素より賞狀及賞杯を目的に義金を贈りたるものにはあるまじげれど、二ヶ月も遅れ、愛知縣人會に倣ひて送金したる和歌山縣人會の如き、本年一月既に和歌山縣廳より賞狀や盃を送附され之れを領收したりといふに愛知縣が今尙之を送附せずといふは、餘りに怠漫にはあらずや、而して在米愛知縣人會水谷萬嶽氏より我社に

宛て右に關し縣廳に交渉し吳るゝ様依頼ありたるを以て直に之を試むる處ありたるに縣にては殆ど要領を得たる返答を與へず恰も雲を掴むが如き態度なりき、在米愛知縣人會にては其賞杯にて新年の祝酒を擧げ、尙賞狀は之を掛額として永く保存し以て縣人會の一致を漸く堅固たらしめんと希望しつゝあり、されば愛知縣にても在外同胞發展の爲めに其情を汲み紀念として且又奨勵に値する賞狀若くは賞杯を交附するが當然なるに、此の如くして事を捨置くが如き實に怪しからぬ事と言ふべし。

更に本章第一節に記述せる如く千九百十四年二月十八日本會代表者水谷萬嶽が松井知事に會見して交渉したるに對し水谷萬嶽は左の書面を齎して本會に復命したり。

拜啓時下益々御清穆奉賀候陳者一昨年縣下風水害に際し罹災者救済の爲め多額の金員（第一回二千六百弗、第二回百廿八弗四十仙）御送附に預り當時不取敢前任者より御挨拶申述置候處其後右金員は各地よりの義捐金と共に各郡市に配當夫々罹災者へ分配を了したる上貴會の分に對する行賞方に付ては既

に其筋へ上申中に有之詳細の儀は櫻府日報社主水谷萬嶽氏へ相話し置候間同
氏より御聽取相成度此段得貴意候 敬具

大正三年二月十八日

愛知縣知事

松井

茂

サクラメント市

北米愛知縣人會長 淺井龜次郎殿

果然同年五月八日の官報に左の如き報告を見尋いで桑港帝國領事館の手を経て
同金盃を拜受したり。

米國加州サクラメント市

愛知縣人會

大正元年九月暴風雨の際愛知縣下羅災窮民へ金五千四百七十一圓餘賑恤候段
奇特に付其爲賞金杯一個下賜候事

大正二年十二月十七日

賞勳局

天涯萬里の異境に在る我が愛知縣人が母國郷里の災厄を救はんとして醜金し
たる此の一擧の赤誠が長くも天開に達して金杯下賜の恩命に接したるは實に望
外の光榮とする所、殊に在米十萬の邦人同胞中個人としても團體としても斯か
る金杯下賜の榮譽を擔ひたる者は獨り我が北米愛知縣人會あるのみ。

第四款 愛知縣との聯絡

日本政府には由來海外移民に對する一定の方針無く極めて放漫的なるが故に
民族の海外發展を期する能はず、従つて海外に在る吾人同胞は母國と關聯す
る總ての事に付て斷ねず不便にして苦痛の状態に在り。例へば在米邦人に各所
轄帝國領事館より發給しつゝある身分證明書の如き各地の日本人社會に共通し
たる統一的標準無くして漫然之に移民非移民の區別を附するものなるがその無
標準にして漫然附したる移民非移民の區別が頓て再渡米又は呼寄せとして旅券
を交附する場合には絶對的不可動のものとなりて總ての取扱を異にするが如き
非論理的にして言語道斷なり。或は民法戶籍法等の不備と地方下級官吏の繁文
禮褥等とが相混して、在米者の原籍實家に其の累を及ぼす事、甚しきは數次私印

偽造等の詐偽的行爲に依りて在米者の郷里に於ける不動産を購着さるゝなど一々枚舉に遑あらず。

斯くの如く吾等在米邦人が苦痛の状態に在る所以のものは、主として日本政府の在外民に對する放漫の責に歸するものなるも、又一は母國の一般人士が在米邦人の事情に通せざるに起因するもの多し。殊に愛知縣の如きは現に二千餘の本縣人が協力一致して三萬英加の農園を經營し、三百餘の家庭を作りて約三百の米國出生兒を有し、民族的に將産業的に大發展の状態に在る在米本縣人の事情は縣當局者すら之れを知らず。況んや縣下一般の人士をや、斯の如きは當に吾等在米本縣人の不利益なるのみならず。之を等閑視するは縣下の大不利益ならずとせず。於是本會は千九百十四年二月十八日本會代表者水谷萬嶽をして愛知縣廳に松井知事を訪問せしめ在米本縣人の現狀を細大陳情して向後愛知縣と本會との聯絡條項を交渉せしめたり（第六章第一節參照）然るに果然翌千九百十五年五月廿九日愛知縣理事官原口晃は吾等在米縣人を訪問せり而して翌三十日原口理事官は河下地方に於ける本縣人農園の一部を巡視し、同日本會主催

として河下ウオーナツグロウヅに開きたる同氏體迎會の席上に於て左の如き訓諭的演説を爲したり。

今回私は桑港博覽會の要務を帯びて渡米したのであります。此地に来て見ますと諸君が萬里隔絶の祖國より離れて此の北米の曠野に活動してお出になる現狀を見届けると歸らぬと云ふことは如何にも私が渡米した使命を果さない様な氣持が致すので今日は慇々御邪覺に参りましたところが圖らずも斯く多数の方々と親敷お目にかゝることが出来その上斯る歓迎を受くるのは私が衷心より喜び且つ感謝するところであります。

先づ諸君の懐しい故國の現狀を申し上げますと、我が愛知縣も明治四十二年名古屋に於ける共進會以來著しい長足の進歩をして今や人口は二百萬に達し農工商の生産額は一ヶ年二億三千萬圓に達して居る其の内六千三百萬圓が農産物で、他は商工に屬しその盛々たる勢は既に京都府を凌駕せんとするの狀況を呈して居ります所が其の反面に

△、穀ぐよりの贅、澤、の方、が長ずるといふ弊害が伴つて來まして、田舎の宴會にできへバナ、ヤアツブルを出すといふ有様で具眼者は眉を擧めて居るところに三四年以來打撃く不景氣のために經濟界は幾分の打撃を被つて自然生活難を生ずるの傾向を呈

して居ります、然し此の風潮は一般的であつて政府もそれを救済するに苦心して居る。で我が愛知縣としては斯る風潮の上に超越し何ふしても他府縣に劣らの様否な立派な縣に爲りたいと思つて縣下の官民は今や一致協力して農に商に將た工藝の振興に非常な努力を致して居るのであります一例を申せば

△農事の改良 此は此際最も急務であるとして先づ縣下に農事試験場を置いて孜孜として産物の實質の改良と收穫の増大とに努力を致して居る、御承知の通り我が愛知の平原は他府縣より美れて居る程沃饒廣漠の地であるが、それでも是れ以上に産額を増すといふことは容易でないそれで出来るだけ集約的農業の方法を講究し土地の利用方法に將又肥料の施用に力を盡し其結果現に米作の如きは一反歩に平均一石五六斗の收穫であつたのが只今では一石九斗平均取れることに成つて居る。それを尙増收せればならぬといふので各郡村に多收穫競技會といふものを起して收穫を増すことを競争せしむる結果、昨年度は一反歩に五石二斗の收穫を得た處もあつた、尙ほ追々増額の見込みがある、斯様にして各種産業の改善發達を圖ることが今日の氣運になつて來た而して又一面には農村の資本を共通し金融經濟の發展を圖るの方針を立てて居る

△産業組合 の獎勵は即ちそれである此の如くにして現在の年收二億三千萬圓より

尙一層生産額を増して他府縣に富の超越せんことに一致努力して居るのである然しながら産業を振興して富の増殖を圖り縣民の實力を養成する一方には又縣民の品性を高むることを忘れてはなりぬ金持ちになれば金持ちの且那樣らしい風構へが約合ぶやうにせねばならぬ茲に於て縣は又大に

△教育の事業 に力を致し小學校や中學校の教師の待遇法を改むると同時に地方に青年會を起して第二の後繼者たる青年に産業的智識を授けると共に其の品性を陶冶せんことに努めて居る又その配遇者となるべき未婚少女のためには處女會を起して婦徳の涵養に資して居る更に又我が日本には古來「長幼序あり」といふ美風があるがそれが近頃頹廢の傾向になつて居るからそれが復興を圖るために敬老會といふものを起して居る、斯くの如く種々な會合を起し集合の力即ち仲間同志の力に依つて互に練習し切磋して縣下民風の矯正を圖るべく鼓舞獎勵して居る言換ふれば經濟と道徳とを繩に綯合した様な立派な縣民を造り所謂道徳と經濟とを並べ進めて以て恆産恆心ある立派な縣民を以て愛知縣を固め而して尙これを向上發展せしめたいと云ふので官民一致茲に力を致して居るのであります

△尙更に一つ獎勵して居ることは貯金の事業である若い働き手の仲間では背越しの金は持たぬなどと大言壯語して居るのを日本人の常とするが時勢は今や全く變つて

来た諸君が北米の平野に来て働いて居る如く日本人の天地は廣くなつて来た日本も今や日本の日本ではなく世界の日本となつて来た従て各人個性の價値に於て又經濟上の實力に於て常に萬國に對立してひげを取らぬだけの實力を養成せねばならぬ時期が到來した面して此の實力を蘊蓄する方法としては貯金を實行するといふことは體に有力なる一の方法である然るに御互ひ日本人は兎角此點に一大缺點を持つて居る今や此の欠點を取去り國民も國家も此の點に於ける實力を養ふべく大に貯金の奨励をして居るのであります幸に其の効果は日に月に著しく成績が現はれて現に中島郡の如きは一月平均三百五十圓宛の貯金を有することになつて来た。然るに私が此の米國へ來ていろく在米同胞間の事情を聞くのに米國に長く居ると或は△腹痛、味の締りが少し弱くなるのでないかと思はれる節があるこれはヤトルの話であるが日本人は克く働いて克く金を儲けるが支那人は一向働かない、それに如何なる譯か對白人の金錢上の信用は日本人よりも支那人の方が厚いと云ふことである日本人は切角働いても其の儲けた金は皆支那人に捲上げられ支那人は日本人より捲き上げた金を貯蓄して白人に對し信用を博して居るといふに至りては御互ひ日本人としては大に反省考慮せねばならぬではあるまいか諸君の祖國に於ける風潮をも顧みて茲に思ひを致されんことを切望する次第であります。

△諸君の懐しい故郷は前に申した通りの現状であります。業より諸君は御如才あるまいが懐しい故郷を去り萬里の波濤を越えて此の異境に苦心慘憤、夜々泣々として奮闘成功を期すると共に日本人として將た世界の人として信用あり權威ある人となりて立派に成功して貰ひたい私は此の事を衷心より切望するのであります然るに今尙排日の聲は止まぬ私は政治家ではない従て排日問題を論議することは好まないが何故に親善なるべき筈の日米間に此の如き忌はしき問題が何時までも蟻まつて居るのか私は今此の地に來りて轉々感慨の情に堪へないのであります率直に言へば米國に來て居る日本人の品性が低いと云ふことも此の問題を惹起する一の原因となつて居るのではないかと思ふのであります固より此の大問題は此の如き一小原因のみを唯一の原因とするのではないと云ふことは敢て識者を須つの要もないのであります若しも日本人の品性問題が排日問題の裡に含まれて居ると云ふならば在米日本人としては大に此の點に注意せねばならぬ若し又幸に斯ることは毫も排日問題に關係がないとしても私は諸君が品性修養の點に非常の注意を拂はれんことを望むのであります然るに此の品性問題に相當の理解を持つには矢張相當の學問の素養もなければならぬ然し諸君に今更學校に入つて勉強しなさいといふ如き議論を呈するのではない

他に手つ取り早き方法によりて學問したと同様の結果を得る様に心掛けて貰ひたいと思ふのであります諸君が其墳墓の地を去りて遠く此地に來られる時の決心は如何であつたでしやうか其處には非常に大きな立派な決心のあつたことを私は確信するのでありますよし又此の如き大決心がなかつたとしても諸君が孤島晏居の夢を破りて萬里の波濤を越へ遙々此の地に來られたといふことは實に諸君の一個の歴史を飾るべき立派なことであるのみならず海外思想を養成することを非常に必要とする日本國民の現狀に對しては諸君が北米の平野に大活動をして居られるといふことは非常に能き活教訓であると思ひますそれを思ひ彼を思へば私はどうかして諸君をして經濟的に成功せしむると共に品性上にも亦大に成功せしめたいと思ふのであります其處で想ひ起すのは祖國の各府縣に於て殊に愛知縣などに於て現に今計畫實行しつつある明治天皇の御崩御及今上陛下御踐祚を記念すべく各種の事業を企て、あるといふことであります私は此の如き事業に干與するといふことが其人をして不知不識の間にて自然に社會國家といふ大にして且つ高尚なる觀念に觸れしめ自然に其人をして品性上の向上を促すの價值あることを信するのであります若し果して然れば諸君も亦日本國民として記念すべき此の機會に於て國の人と同じく何か一の記念事業を御企圖になつたら如何のものか諸君が若し或る資金でも贈集しこれを基金と

して祖國の無資力なる學生でも教養さるゝことになれば一は諸君の歴史が廣く又永く傳はりて日本國民の海外思想養成の活資料たるべきのみならず其の教養された人も諸君の徳風に感謝して大に奮起奉公の誠悃を盡すものあるべく而して諸君は不知不識の間に斯く高尚にして偉大なる公共的事業に關與し完成して諸君の品性を高むる上に於て又大に得る所あらんか……私は諸君が常に斯の如き點にまで思ひを致して在米日本人の風尚を向上せしめ援ひて白人をして自ら景仰の念を起さしむるまでに至らしむる様注意努力されんことを切望して已まぬのであります……

翌四月一日本會々長大野吉五郎以下幹部役員一同と原口理事官との間に本會事務所に懇談會を開きて本會と愛知縣との聯絡事項につき種々協議を爲したるが此時稍具體的事項としては(一)愛知縣に在米愛知縣人後援會を組織して在米本縣人とその郷里に於ける諸般の便宜を圖る事(二)在米本縣人が母國郷里に對する誠意と實力とを示すため若干の醸金を爲して愛知縣に育英事を起す事業の二件なりき。左に白嶺子のものにして櫻府日報に掲げたる原口氏巡視紀行を轉載す。

愛知縣理事官原口晃氏巡視紀行

三十日午後二時、愛知縣人會の前から自動車で一行七人はエム街を一直線に加州政廳を目指して驅出した一行といふのは愛知縣理事官從六位勳六等原口晃君名古屋七寶商安藤重壽君桑港大博愛知縣視察員澤田昌平君一寸息をつかすには讀み切れぬ程長い肩書のそのお三人と次が在米愛知縣人會幹事文學士大橋麻道君幼名安次郎葛城と號す之れも相當に長いそれから新世界櫻府支社員神田汀波君其次が櫻屋の櫻さん佐藤静子芳紀正に十七といふ萬線叢中の紅一點を合せて六人とその外に斯く書き記す水谷萬嶽と申す僧侶より還俗したる櫻府日報記者との七人であつた。

原口君は私が昨年二月愛知縣人會の用事で愛知縣廳へ行つた時丁度松井知事以下課長會議の席でお目にかゝつた人極めて官臭の無い淡泊とした人だ。今度は桑港萬國大博覽會の用務を帯びて渡米されたを機會に親しく在米縣人の現狀を視察すべく其貴重なる滞米幾日の内の時間を割愛して懸々櫻府の平野に其車を任せられたのであつた。

今日は即ち同君が其任務の一たる在米同縣人の農園を訪問する首途である、安藤君は名古屋に於ける實業家の諸々たる人遁に七寶旋本家の旦那様として何處かに福々しい好紳士、澤田君は知多銘酒醸造家の若旦那で在米幾年さいふ修業をして日本へ歸り今度大博覽會視察員として同縣から派遣された人であるが之れも名古屋仕込み丈けに何

處か隅に置けない所がある

一行は政廳のエムの正門から入つて直ちに政廳の高樓へ登つた。更に三百十三呎といふタプツに登つたのは澤田君と静子嬢と私との三人のみ、他の四名は私どもの登るのを下から見居る丈けでさへ腰を抜がして居た臆病者計り、それにしても静子嬢の健さには驚いた三百十三呎の高樓から平原十一郡の沃野を一眸の裡に瞰下して快談を叫び下つて政廳公園を一周して是より道を上スタクトン道に取つてフロリオン指して疾驅したのである

エヌ街よりヒール街に出て是より上スタクトン街道を南進し、更に左折してフロリオン區に入ると、見渡す限り蒼々とした三千英町歩の葡萄園が開展される遠近に點々と見ゆる農舎や古びて壊れかけたウヰンダミルや、偕ては此の日の雨にたゞかれた葎畑やが點綴彩をしながら毎時背景のシーラネパタ連山が霞に隠れて居るので繪として物足らぬ心地がした、三時フロリオンに着く、此の間行程十英里谷川商店前に車を停めて山本旅館のアイヌフリーム、パーラーで少憩して再び車上の人となつてエルクアローへ向つたのである

フロリオンのタウンを出て東進約一英里許りの處は非常に道路が悪い、車横が揺れをする上下動をやるから時々シートを離れて飛び揚がる土埃を被るなど文句たらしく

遂に街道の責任問題まで出たがみんな事免職もされずに四時エルクグロウツ杉本常松君の農舎へ着いた所が杉本君不在じやホーイも居ない戸口には錠がかけてクレット板に「ホスさん私共は魚を釣りに行きますホーイ一同」と書いた杉本君へ宛ての遺書が戸口に樹てあるナール程今日は日曜日だからと合點はしたが案内のしてあつた譯でもないから後で言掛りの種子もなし、仕方がないから原口君へは私から「此の農園は二十英町歩杉本君の所有然ふです平和の戦争に勝得た日本民族永遠の占領です」を冒頭に他は可いころ加減な知つた顔に土地の買入れ方法や葡萄の栽培法や梅を市場へ輸送する取引方法でお茶を濁して居ると機轉の利く澤田君や江波君は何時の間にか静子嬢を伴れて遙かに遠い處で梅を摘んで居る梅十バスケツトを摘採るのに一時間許りもかゝつてプログラムの時間割りに大蹉跌を來した結果遂ふく前野宮三郎君の前は素通りして再び元來た上スタクトン街道に出た、是より歸路十八英里坦々砥の如きアスファートの上を迂るやうに疾走して一旦櫻府まで歸り更にフオルソム街道に出てライトオンに野口君のハツプス園を訪問してゼー街に出た、モウ此時は暮靄に包まれて冷風を浴びつゝ、車を飛ばすのだから氣持が好い、更にエム街に轉じてキャピタルの高燈を望みつゝ、市に入り煌々たる電燈の光り目眩きケー街より市役所、郡衙の邊を一周してエスビーの養老橋上に櫻河々畔の暮色や全市の夜景を瞰下し

て八時いろは亭の晚餐會へ案内をした。此の一行に大野會長の在つたことを此まで書いてから思ひ出した。

いろは亭の晚餐會は會長大野吉五郎君以下同會々員の備してある會者二十名席が定まると大野君が起つて「正式な歡迎會は明日河下でやる筈ですから今晚此の席は近頃流行後れの席上演説など悉皆ヌキにして、他人混らす内輪同志の無禮講を願ひたい。お酌にはお米、夏江、笑子、照子、房枝といふ加州切つての美人揃ひ打寛いて緩つくりと召しませ、取分け安藤さんや澤田さんは生粋な名古屋ッ子ゆへ名古屋土産の乙な所でも聽かして戴きたい……」テナ粹を利かした開宴の挨拶をした、スルト原口君は入ッ張り慇懃な態度で鄭重に答辭を述べた。ア献盃が始まると夏江や笑子や如才なく侍つて立ち廻る、お國嶺が出る快談が湧くそこで今日郊外の詩趣やら旅情やらおのろげやらチャンボンに承つた其の一二を擧げる

雲に入る野原の末も縁して

アメリカカ牛の群れて遊べる

(安藤君)

嬉しさに今宵計りは忘れけり

故國にのこせし夫なしの花

更に照子に地を唄はして自分で最後獅子を弾いた澤田君に至つては道に名古屋紳士の遊び振りが偲ばれた

一行打揃つて十一時に愛知縣人會へ歸ると此處では靜子嬢が茶の湯の支度をして待つてゐた嬢が津島の松尾流水室の弟子であることは昨年歸郷したときから知つてゐたが斯んな異郷でお手前拜見など想ひもよらず、それにしても氷室に西洋館はなし又近來出來た新式の椅子など立て教へることなども聞かなんだのに、賓主席の配置などチャント法則に適つてゐたのは多分嬢が獨得の案出であらう次いで暇さばきや運びのしとやかな風情など坐に大和撫子の優雅を偲ばした、一行をイースタンホテルに案内して二時に就寢

三十一日今日は河下行き、一行は昨日と同じく原口君以下の三君と大野會長大橋幹事それに私とで六名、今日は山田録次郎君農園用の自動車で速力六十英里に五十馬力其價格三千弗といふ素晴らしい丸物だから實に乘心地が好いそれに御大山田君の運轉手ときてるから生命保險會社から文句の出る氣遣ひもない、誰か原口君に愛知縣の知事さんは之れよりもまだ立派な自動車を御持ちでせうと尋ねると「自動車どころかか、へ車もない實は縣應用に自動車を一輛購ひたいと思つてゐるけれど金がなくて買

へない」と原口君は答へたムルト「それじゃ我が愛知縣人會から立派な自動車を一輛寄附致しませう但し縣下の隅々まで知事さんが其自動車に乗つて廻れるやうに道路を改修してからと云ふ條件付きです」と椰論した

午前十時出發下スタクトン街道に出て、例の一直線のアスファルトの路を全速力で走らすこと十五英里僅に廿分間でフランクリン村に達した是れより右折してフィールドから櫻河の堤畔に上つて南進する櫻河は其の水源を加州の北端シヤスタ山に發して廣袤二萬方哩といふ櫻河の兩岸は今や新緑滴る柳條が繁茂して居るし更に眼を放つては所謂一望千里雲より雲に入る河下の大沃野がバツとパノラマのやうに開展される「何ふです原口さん尾瀧の大平原と比べては？」と聞くに「逆もく比べものにはならぬ、驚くの他はない」と原口君は只一語、

右の方櫻河を隔て、ノット島の農園を指し左の方河畔に沿ふて際涯なき果樹園の説明を爲しつゝ、コートランドに到る同所に少憩の後水谷清重君の農舎に行つた水谷君は在宅であるし諏訪小太郎君が組鮫を打つて居た水谷君に原口君の來意を告げて直ちに同氏の農園に行く、右は玉葱の種子左は人參の種子が載せてある其の中間を自動車で行くこと約一英里其の耕地面積は四百英町歩である、玉葱も人參も今が花盛

りて水晶花のそれのやう白々と咲き亂れて露と霞んで居る、安藤君は怪訝な面をして「一体是れは何んです？」と聞く「玉葱の種と人参の種です」と答へると「何ふするのです？」と問返す「矢ッ張り人間の喰ふ野菜の種にするのであつて、東部諸州や歐羅巴へ輸出するのです」現に加州に栽培して居る玉葱の種丈で三千英町歩あるのですが本年は此の通り天候の災に罹つて不作ですから來年度は玉葱の種一斤の代價が五六弗もするでせうと言つたら「へ、これが種になるのですか、テモ仰山なこと」原口君曰く今通つて居る此道路は何です「之れは日本でいふ田圃の畦畔です」と答へると「日本の畦畔は大や馳の通るもの米國の田圃の畦畔は日本の縣道より廣くて五十馬力の自動車を通るのですなア……」と原口君は愛嬌をふりまく「狭くとも恵みを廣く世にはこぶ基ひとなれや畦の細道」これは愛知縣農村視察の際の感想を述べた拙作であるが日本では畦路は細く狭いものと極まつて居るのに亞米利加に來て見ると全く趣が違ふ只こればかりでなく一事が萬事で日本のせまつくるしくて人の氣質さへいとも干渉性なるに思ひくらべて米國の方は萬事が何となくゆつたりとのんびりした所がある、唯々所違へば品變ると云ふが僅に海を隔つれば何事も斯くまで變るものか日本人も今少しはゆつたりとのんびりとした氣風に教育をせなければ逆も世界的國民の仲間入りは出來ぬはいと如何にも感慨無限の情迫れる原口君の述懐に釣込まれて談は頗る眞面目に

爲つて其日は遂に暮れて旅館に歸つたのは夜の九時過であつた。

第五款 故國愛知縣に育英事業

在米同胞が常に母國郷里を愛慕する情の深き事は母國人士の到底想像し能はざる所のものあり、蓋し人情の自然にして加ふるに不斷排日的壓迫が外部より刺戟して一層其の感を強からしむる傾向あり。又在米同胞に駁々として日進月歩する米國文明の感化啓發を受けて其の智識に於て道德に於て進歩向上しつゝある事亦た母國人士の想像以上なり。又吾人在米同胞が爾かく排日的壓迫を受ける所以のものは母國文明の低級なるに起因するものとして之れを嗟嘆し、常に懷を母國文明の發達を圖るに趨せて母國後昆の活動に期待するの念は寤寐にだも忘れず。然るに吾人の郷里愛知縣は其の産業に於て富力の程度に於て各府縣中の上班を占むるにも拘らず未だ縣下としての育英的財團の在らざるを遺憾とす。吾人微力にして理想の萬一をも實現し能はざる事は固より之れを知る幸に他日漢楚を待つ陳吳たれば足れりとして豫て愛知縣に育英事業の財團を企圖せんことを本會幹部員間の宿題と爲しおたる際、圖らずも本會を問訪した

原口理事官が本會に此事を勧めたる故當時本會の幹部員は實に會心の喜悅を以て之れを迎へたり。同時に原口理事官と本會幹部員との懇談會の席上に於て本會が愛知縣に育英事業の醸金をなすこと、愛知縣が在米縣人のために後援會を組織する事とを相互的交換問題として、先づ本會が育英事業に醸金する事を先にすべしと約束したり。然るに本會は爾後事情の許さざるために往再三年を経過したるが、一昨年歸國したる本會幹部員八木初三郎が原口理事官に會して其後の経過を尋ねられたることを本會に報告し、同時に本會亦た母國に在米縣人後援會設立の急務なる事を感じたる故、遂に昨年一月本會第三十四回定期總會の議題となりて之れを可決したり。育英事業は之れを在米愛知縣人獎學基金と稱し、其の資本金五萬圓の利子にて貧家の子弟に中等教育及高等教育を受けしむる目的なるが、資金は全部在米本縣人間に募集して財團法人と爲し、愛知縣知事を總裁として愛知縣廳内に置くものとす。斯くて本會は前記定期總會後直に其の醸金募集に着手したるが之れに應じたる金百弗宛の捐金者左の如し

大野吉五郎、山田菊次郎、八木初三郎、淺井龜次郎、横井助太郎、若松梅太

郎、生田見壽、堀田與三郎、渡邊國太郎、平野倉次郎、津田信隨、堀田鎌次郎、間野定吉、竹島順造、野口庄五郎、石垣宗十郎、水谷萬嶽

右金千七百弗は第一回分送金として昨年三月愛知縣廳原口理事官宛に送致したり、

財團法人組織に關しては昨年歸國したる本會代表者水谷萬嶽が松井知事と協議の上松井知事はその總裁たる事を承諾し主務省への請願は愛知縣地方課屬永利法學士に依つて手續を運ばるゝこととなり、又右原口理事官宛の既送金員は財團組織の裁可ある迄愛知縣會計課に特別會計として保管し利殖の方法を講じつゝあり尙ほ其後送金して之に五十弗を加へ又昨年九月既に六十餘圓の利子を見たり。

第六款 故國に在米愛知縣人後援會設立

猶額大の島帝國にして年々五十餘萬の人口増殖し、領土既に開墾の餘地無く土壤衰瘦し天候不調にして大農に適せず農作物の如きも僅少の種類に限るる等は工業國たらんとするも天産物に乏しく商業國たらんとして外交振はざる母

國の將來は轉々寒心に堪わざるものあり。されば民族の海外的發展は最も有利にして急務なり殊に北米移民を最とす。然るに我が政府當局者は之れに對して常に放漫無方針なるが故に、我が在米同胞は斷わす排斥的壓迫の下に踏躪し、之れに同情すべき筈の母國官憲は却つて冷酷に棄民視せり。更に郷党は吾人を繼子扱にして甚しきは切角天涯の異境に多年粒々辛苦しつゝある在米者の隙に乘じて其の郷里實家の不動産を詐偽的行爲を以て奪はんとする盜兒すら多し。其れ他通信の不便又は事情の不徹底等より母國の實家と在米者との間に屢次發生する種々なる家事上の紛擾に際して時に仲介者となり又は斡旋者となりて吾人在米者のバックとなる半官半民的の機關を設立すべく本會は千九百十六年十一月十三日の臨時總會に於て之れを決議したり。幸に昨年歸國したる本會代表者水谷萬嶽をして愛知縣下に此事を奔走せしめたるが先づ賢明なる松井知事の賛同を得て更に在米本縣人の多數出身地なる海部中島二郡有志家の同情に依り目的の一部を達したり、即ち海部郡は伊藤郡長の斡旋に依り昨年九月十七日に開會したる同郡町村長會議の決議に依て成立し之れを海部郡海外殖民協會と稱す、其

の會則左の如し

海部郡海外殖民協會規則

第一章 總 則

第一條 本會ハ海部郡海外殖民協會ト稱シ事務所ヲ海部郡役所内ニ置ク

第二條 本會ハ海外居住者ノ内地ニ在住スル家族及財産ノ安全ニシテ且確實ナル連絡ヲ保持セシムルコトニ努メ海外居住者ヲシテ後顧ノ憂ナク事業ノ發展ニ専心活動セシムルヲ以テ目的トス

第三條 本會ハ海外居住者ノ郷里ニ關係アル官公署ノ主ナル吏員及其地方ニ於ケル篤志名望家ノ有志者ヲ以テ會員トス

第二章 事 業

第四條 本會ハ第二條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ施行ス

- 一、海外居住者ノ要求スル事項ヲ處理スルコト
- 一、海外居住者ト内地ニ在住スル其ノ家庭トノ連絡ヲ圖ルコト

- 一、海外居住者ノ組織スル団体ト連絡シ前二項ノ便宜ヲ圖ルコト
- 一、在外事情報告講演會ヲ開催スルコト
- 一、其他必要ナル事項

第三章 役員

第五條

本會ニ左ノ役員ヲ置ク
會長一名、副會長一名、幹事若干名

前項ノ外必要アルトキハ書記ヲ置クコトヲ得

第六條

會長ハ本郡長、副會長ハ津島警察署長トシ幹事ハ海外居住者出身地ノ町村長及會長ヨリ委嘱セラシタルモノトス

本會ノ役員タル官公署ノ吏員ニシテ轉任退職ノ場合ニ於テハ其新任者ニ後任タルベキコトヲ委嘱スルモノトス

第七條

會長ハ本會一切ノ事務ヲ總理シ本會ヲ代表ス
副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス
幹事ハ會長ノ指揮ヲ受テ庶務及會計ノ事ニ從フ

第八條 本會ノ役員ハ總テ無給トス

第四章 會議

第九條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク

但會長ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時ニ之ヲ開クコトヲ得
總會ニ附スヘキ事項左ノ如シ

一、會務ノ報告

一、豫算及決算ノ認定

一、其他必要ナル事項

第五章 會計

第十一條 本會ノ經費ハ寄附金ヲ以テ之レニ充ツ

第十二條 海外居住者ノ要求スル事項處理ニ關スル費用ハ要求者ノ負擔トス
大正七年九月

中島郡は吉川郡長の同情ある幹旋にて成立したるが之れを愛知縣中島郡海外移民後援會と稱す其の會則左の如し

愛知縣中島郡海外移民後援會規則

第一章 總 則

第一條

本會ハ北米在住ノ中島郡出身者ト其内地ニ在住スル家族トノ連絡並ニ財産ノ安全ヲ圖リ以テ海外居住者ヲシテ更ニ後顧ノ憂ナク専心事業ノ發展ニ努力セシムルヲ目的トス

第二條

本會ハ愛知縣中島郡海外移民後援會ト稱シ事務所ヲ中島郡役所内ニ置ク

第三條

本會ハ海外居住者ノ在籍町村内ニ於ケル篤志家、名望家其他ノ有志者ヲ以テ組織ス

第二章 役 員

第四條

本會ニ左ノ役員ヲ置ク

第五條

會長一名、副會長二名、委員若干名、幹事若干名

第六條

會長ハ郡長副會長ハ警察署長、分署長トシ委員ハ海外居住者在籍地ノ町村長ヲ以テ之レニ充テ幹事ハ會長ニ於テ委囑スルモノトス
副會長ハ本會一切ノ事務ヲ統轄シ會議ノ議長トナル
副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ其事務ヲ代理スルモノトス

委員ハ本會ノ重要ナル事項ニ參與シ會長ノ指揮ヲ受ケ事業ノ執行ニ任ズルモノトス

第七條

幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務會計ノ事務ニ従事ス
本會ノ役員ハ總テ名譽職トス

第三章 會 議

第八條

本會ハ毎年一回總會ヲ開キ會務ノ報告ヲ爲スモノトス

第九條

本會ハ必要ニ應シ代議員會ヲ開キ委員ヲ以テ會員トス
代議員ノ議事ニ附スヘキ事項左ノ如シ

- 一、經費ノ豫算並ニ決算ニ關スルコト
- 二、規則ノ變更ニ關スルコト
- 三、其他必要ナル事項

第四章 事業

第十條 本會ハ第一條ノ目的ヲ達センガ爲メ海外居住者ノ組織スル團體ト連絡シ施行スヘキ事業概ネ左ノ如シ

- 一、海外居住者ノ要求スル事項ヲ處理スルコト
- 二、海外居住者ト内地ニ在住スル家族トノ連絡ヲ圖ルコト
- 三、在外事情報告講演會ヲ開催スルコト
- 四、其他必要ナル事項

第五章 會計

第十一條 本會ノ經費ハ有志ノ寄附金ヲ以テ之レニ充テ剩餘金アルトキハ基金トシ積立テ置キ必要ナル場合ハ代議員會ノ議決ヲ經テ經費ニ繰入ル

、モノトス

第十二條 第十條第一號ニ要スル費用ハ要求者ノ負擔トス

第十三條 本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第十四條 本則施行ニ關シ必要ナル細則ハ會長之レヲ定ム

大正七年九月

愛知縣中島郡海外移民後援會

本會の希望は全縣下に在りたるも水谷の日本滞在日數に限りありて之れに奔走するの餘裕無かりしために前記の如く二郡のみに止めたり、されど他日全縣下に亘りて設立されたる場合には二郡ともそれに合同するの趣旨にて設立されたり、又本會は之れが全縣下に亘りて縣下一般海外民のために後援して本縣人海外發展のために貢献する、日の幾庶からんことを期す。又右兩會とも他郡出身者のためにも希望者の需に應じて能ふ限りの便宜を與へらるゝ等なり。

第七款 本會創立二十週年祝賀會兼金杯拜受式

本會は千九百十六年十一月十二日、本會創立二十週年祝賀會兼金杯拜受式を加州首府櫻面都市エム街帝國ホールに舉行したり、蓋し本會は千八百八十九年に其の紀元を創めたる我が愛知北米移民九年目の千八百九十七年に呱呱の聲を擧げて以來在米本縣人のホームとして星霜を閱すること茲に二十年而も此の二十年は漂然たる遊牧的移民時代より風餐露宿の艱難を共にしたる本會々員が、克く現代産業的發展の成功を贏得たる奮闘の歴史なり。又曩に千九百十二年縣下暴風雨の罹災民を救恤するに一擧數千圓を醸出したる在米本縣人の赤誠が天間に達して金杯下賜の恩命に接したるは大に本會の光榮とする所、故に本會は此の二者を併せたる意義に於て此日盛んなる祝典を舉行し。翌十三日同市佛教會に於て在米愛知縣人先亡者のために追悼法會を舉行したり、即ち吾人と共に此の天涯の異境に奮闘努力して中途に殞れたる友こそ我が北米愛知移民の眞の犠牲者たるなり。奮闘に贏得て茲に本會の祝典を舉行する吾人は同時に彼等中折したる亡友の英靈に此の感想の一半を頌ちて一遍の香華を手向くるは吾人の義務にして又忍び難き至情の涙無き能はず、然るに移民の草分時代は極めて濛

濛たる事多く行衛不明者生死不明者等を續出す。されば本會は此の追悼會を舉行するに先ち夫等行衛不明者又は先亡者の死填處及墓碣の處在地等を調査する必要を感じ之れに着手して約半歲間に亘り合衆國全部及英領晚香披等の各地に徴し能ふ限りの手を盡して調査を遂げ辛うじて別項記載する所の結果を得たり。只遺憾とするは櫻府美以教會に過去帳の如き記録無き事なり、即千八百九十九年櫻府佛教會の創立さるゝ以前に於ける櫻府平原邦人の葬儀は總て櫻府美以教會にて取扱ひたるものなるが、同教會は千八百九十一年(明治二十四年)の創立にて現存せるも前記の如く之れに對する何等の記録無し。更に之れを櫻面都市衛生課の記録に徴せんとしたるも十年間に亘る同記録は頗る浩漭なるものにて一朝の事に及ばず依て之れを止みたり。

(一) 祝賀會兼金杯拜受式

維時千九百十六年十二月十二日午前十時加州首府櫻面都市エム街帝國ホールに開會、壇上は幔幕を以て圍繞し之れに菊花を豊富に用ゐて遺憾無く裝飾を施し、一段高き中央の上壇に恩賜の金杯を恭しく三寶の上に裝置し。其の左右又

別に壇を築きたる上に九州人會、廣島縣人會、東北縣人會、和歌山縣人會等の各團體及個人より寄贈されたる祝賀記念品を陳列したる光景最壯麗を極めたり。定刻前既に會衆堂に滿ち正に十時本會々長にして此日の總委員長たる横井助太郎簡單に挨拶を述べて司會者大野吉五郎を紹介し大野司會者開會の辭を述べ次に水谷萬嶽本會創立以來祝典舉行までの本會に關する細大報告を爲し了て會員一同總起立、唸曉たる奏樂に和して君ヶ代二唱、此間に會長横井助太郎鞠躬如として金杯を拜受し、是より左のプログラム通りに式次を進行したり

祝文

愛知縣知事法學博士 松 井 茂

(大橋代讀)

- 同 櫻府日本人會代表 津田伊之吉
- 同 和歌山縣人會代表 崎山信次
- 同 廣島縣人會代表 田邊拓之
- 同 東北縣人會代表 佐藤力太郎
- 同 九州人會代表 井芹吉次

祝辭演說

右最も森殿に演じ了つて會衆一同 天皇陛下萬歲、合衆國大統領萬歲、愛知縣人會萬歲を各三唱づ、連呼して正十二時に散會を告げたり
 此日祝典の記念として九州人會、東北人會、和歌山縣人會の三個團體より掛額各一個、廣島縣人會及武田正夫氏より銀鐘各一箇を寄贈せらる、本會は其の厚情を謝し且つ本會の記念として永く之を藏す。
 ▲餘興 餘興は引續き午後一時櫻面都市の對岸なる養老堤畔に打揚ぐる般々たる日本煙花を合圖に豫て日本町の空地に築かれたる日本角力の土俵場に集る伊藤鞍吉之れが司會者となりて開場を宣す。此日朔風の激しかりしにも拘らす之

- 同 岡山縣人會代表 宮川常三郎
- 同 新聞記者代表 鷺谷精一
- 同 櫻府日本小學校代表 工藤惠達
- 同 祝文 在米愛知婦人代表 佐藤静
- 同 本會々員代表 鈴木良太郎
- 同 服部利三郎

れに群集する見物の日白人四千餘と註す。嘗て横綱常陸山が時の米國大統領ル
 ースルベルトに日本角力の型を臺覽に供するため伴來れる三力士（近江富士、
 平田山、和歌の浦）の一人なる和歌の浦、薩州山（前年梅ヶ谷一行に加はりて
 渡米したる者）旭川（舊東京三段目力士）の三力士を筆頭に、朝汐、室戸岬、若勇、
 小石波、高ヶ濱など呼ぶ素人五十餘名が立替り入替り龍攘虎搏の壯觀を呈して
 五時に打揚く○夜に入つては日本歌舞伎を前の帝國ホールに演じたるが藝題は
 愛知自慢の出世太閤記を六幕通し市川團九、嵐三之助、尾上宇三郎、實川頼三
 郎、三樹他人一座の諸優大車輪にて演じ大向ヤンヤの大當にて十一時に打出し
 たり

(二) 在米愛知縣人先亡追悼法會

北米愛知移民の開拓者先亡英靈の追悼法會は、其翌十三日午前十時櫻府佛教
 會に於て水谷萬嶽司會者として舉行したるが壇上在米愛知縣人先亡者英靈の位
 牌を安置し、工藤開教師の讀經、水谷萬嶽の追悼の辭、在米愛知縣人の開拓者
 恩人鶴見藤四郎の遺子鶴見富士雄の遺族焼香あり、了て同處に記念寫眞を撮影

したり。(在米愛知縣人過去帳は第八款に掲ぐ)
 ▲祝賀宴會 同日正午十二時より日本町菊水亭に各團體代表者以下八十餘名を
 招じて祝賀大宴會を開きたり

第八款 愛知北米移民の犠牲者

千八百八十九年我が愛知北米移民の創始以來千九百十九年に至る過去三十一
 年間北米の野に死亡したる本縣人先亡者は左の如し但尙遺漏ある無きを保せず

俗名	法名	原籍地	死亡地	死亡年月日
山田コト		海部郡八開村字九島	櫻面都市	一八九四
若松勇三郎		山田芳男妻	フエヤオークス	一八九四
石原龜太郎	譯 歸 西	海部郡落合村	櫻面都市	一九〇〇 一、一八
鈴木豐次郎	釋 歸 邦	海東郡津島町	同	一九〇〇 八、二二
大洲清太郎	釋 淨 樂	碧海郡大濱町	同	一九〇〇 一一、二〇
渡邊源之助	釋 篤 信	海東郡川淵村	同	一九〇〇 一一、
横井勇五郎	釋 成 誓	海西郡開治村	同	一九〇一 二、四

(千九百十六年本會調査同十八年五月追加)

加藤茂良	住田初五郎	堀田惣八	鶴見藤四郎	水谷健次郎	恒川徳次郎	矢田太九郎	横井新一	築山榮市	吉川富三郎	山田仙助	平野源右衛門	神谷幸平長男	祖父江嵯峨次郎	青木幾章	三輪萬太郎
釋妙朗童子	釋照法	釋法誓願	釋乘願	釋仰信	釋慈曠	釋瑞然	釋法林童子	釋仙心	釋清徹	釋快然	釋快雲童子	釋修純	釋念章	釋乘誓	
中島郡祖父江町	中島郡稻津村	海東郡津島町	海西郡開治村	海西郡八開村	海東郡佐織村	海東郡佐織村	碧海郡安城町		海東郡津島町	海東郡津島町	碧海郡	海東郡草場村	海西郡市江村	海東郡設治村	

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

一九〇八 三、三〇
 一九〇八 三、九
 一九〇八 二、一〇
 一九〇七 二、一九
 一九〇七 一〇、二
 一九〇七 八、一六
 一九〇七 五、一三
 一九〇七 三、二五
 一九〇七 二、
 一九〇七 一、一六
 一九〇六 八、八
 一九〇六 二、二七
 一九〇五 二、二五
 一九〇五 七、七
 一九〇五 五、一七
 一九〇五 四、二八

山田善七	山岸兼吉	樋田源次郎	細川文三郎	水野興七	後藤源四郎	若山辰次郎	千賀芳太郎	加藤榮一郎	猪飼岩太郎	富田又五郎	鬼頭友三郎	富田留吉	内藤慶次郎	堀田太一郎	花村正義
釋法爾	釋淨四	釋達性	釋乘誓	釋眞樂	釋源成	釋淨証	釋芳信	釋得達	釋成覺	釋成章	釋洞達	釋得証	釋淨慶	釋順性	釋淨起
海西郡開治村	海東郡草場村	中島郡牧川村	中島郡左右川村	海西郡六ヶ和村	海東郡藤波村	海東郡藤波村	海東郡草場村	海東郡草場村	海東郡草場村	海東郡草場村	中島郡六輪村	海東郡草場村	中島郡丸甲村	海東郡設古村	

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

一九〇四 一、三〇
 一九〇四 六、一
 一九〇三 三、三〇
 一九〇二 一、一〇
 一九〇二 一、一〇
 一九〇二 一〇、二五
 一九〇二 一〇、一六
 一九〇二 一〇、一〇
 一九〇一 二、七
 一九〇一 一〇、一七
 一九〇一 九、二〇
 一九〇一 八、六
 一九〇一 七、二〇
 一九〇一 七、九
 一九〇一 三、一三

佐藤嘉一	淨嘉童子	同	一九二八
中野信之	了信童子	同 八開村	一九一九
横井ミサヲ	妙願信女	海部郡 中野 健之助男	一九一九
渡邊ユキエ	妙異童女	同郡 佐織村	一九一九
太田いちえ	妙教信女	同郡 神守村 太田 茂衛門妻	一九一九
竹村 力	淨勤童子	同郡 立田村 竹村 藤松男	一九一九
野口ミヨ子	淨妙童女	同郡 八開村	一九一九
小杉榮吉長女	釋妙教童女	海部郡 佐織村 字重訪	一九二二
野口百太郎 女	釋妙惠童女	海部郡 八開村 字丸島	一九二二
林 慶 夫	釋正化童子	同	一九二二
津坂 次郎生子	釋常照童子	海部郡 佐織村	一九二二
平野仙太郎	釋 教 問	海部郡 津島町	一九二二
林 次郎長女生子	釋妙智童女	同	一九二二

鈴木房江	釋眞如童女	海部郡 神守村 鈴木 真太郎子	一九二六
石 田 茂	釋普賢童子	同	一九二六
後藤智證	智證童子	海部郡 佐織村 待藤 常吉長男	一九二六
小杉一康	康證童子	海部郡 佐織村 字重訪 小杉 小三郎長男	一九二六
矢野千代子	妙香童女	中島郡 平和村 鎌田 新田 矢野 榮吉次女	一九二七
佐藤 茂	覺雄童子	海部郡 市江村 西保 藤代 五郎長男	一九二七
佐藤セイ	尼 妙 清	同 佐藤代 五郎妻	一九二七
土田ヨシエ	妙善童女	海部郡 佐織村 町方 新田 土田 綱次郎三女	一九二七
鈴木 惠	惠明童子	海部郡 神守村 牧野 鈴木 良太郎次男	一九二七
山田小三郎	眞 成	海部郡 美和村 篠田	一九二七
森本シゲ	尼 妙 諦	中島郡 稻澤町 石橋 森本 深太郎妻	一九二七
三輪 嬰 女	妙微童女	海部郡 七寶村 三輪 時三郎長女	一九二七

小杉 夏子	妙真童女	海部郡佐織村 小杉 榮吉長女	同	一九二八	二、二八
伊藤 正一	義良童子	海部郡佐織村 四方新田 伊藤 京次郎長男	同	一九二八	三、一三
矢野 さかえ	妙棠童女	中島郡平和田 新田 矢野 榮吉長女	同	一九二八	三、一七
三輪 ミサオ	妙操童女	海部郡八開村 二子 三輪 庄六長女	同	一九二八	三、二一
小村 トメコ	妙喜童女	中島郡萩原村 戸部 小村 万次郎四女	同	一九二八	四、二二
山田 修政	義修童子	海部郡美和村 篠田 山田 大次郎長男	同	一九二八	四、三〇
櫻木 勘次郎	義証	海部郡佐織村 古川 櫻木 ショウワ夫	同	一九二八	五、一五
寺西 進	義進童子	海部郡七寶村 伊福 寺西 榮次郎次男	同	一九二八	六、二三
横井 源之丞	義明	海部郡平和田 篠田 安達 健重長女	同	一九二八	六、二二
安達 キヨコ	妙達童女	海部郡佐織村 見 山田 健吉養父	同	一九二八	七、一三
山田 善三郎	義善		同	一九二八	九、一〇

小杉 榮吉	榮義	海部郡佐織村 須根 小杉 イシ夫	同	一九二八	一〇、三二
八木 晴子	妙晴童女	海部郡佐織村 須根 八木 愛之助長女	同	一九二八	一〇、三三
秋田 耕藏	義耕	海部郡七寶村 伊福 秋田 照光兄	同	一九二八	一〇、二六
竹田 愛次郎	義愛	中島郡平和田 中島 郡平和村	同	一九二八	一一、一
杉浦 仁三郎	義仁	海部郡津島町 日光 杉浦 キク夫	同	一九二八	一一、二
宇佐 美慶次	義慶	海部郡佐織村 諏訪	同	一九二八	一一、三
安井 俊康	義俊童子	海部郡富田村 富水 安井 柳吉長男	同	一九二八	一一、二三
八木 ヤエコ	妙重童女	中島郡平和田 六輪 八木 文五郎次女	同	一九二八	一一、二三
榊原 丈太郎	義常	海部郡佐織村 佐織	同	一九二八	一二、一三
森本 ヤエ	尼妙香	中島郡稻澤町 石橋 森本 丈太郎長女	同	一九二九	一、一八
服部 ハルエ	尼妙教	海部郡神守村 服部 再一郎妻	同	一九二九	一、二〇

柴田 嬰兒	善哉童子	海部郡美和村小橋方 柴田三五郎長男	同	一九一九	一、二九
若山 嬰兒	義見童子	海部郡佐織村見越 若山万次郎長男	同	一九一九	二、二八
若山 ヒサヨ	尼 妙 久	同	同	一九一九	三、一三
鈴木 惣太郎	義 明	中島郡三宅村	同	一九一九	四、一六
松下 暲	釋了因信士	同	桑	一九〇一	五、七
堀田 勉次郎	釋雅亮信士	海東郡草場村字五軒家	同	一九〇二	二、七
野口 吾一	釋信念信士	海東郡川淵村字小野山	同	一九〇三	六、二三
杉浦 福次郎	釋崇道信士	海東郡川淵村字小野山	同	一九〇三	七、二二
山本 菊五郎	釋寂念信士	碧海郡古部村	同	一九〇四	(月日不詳) 五月廿日頃
八木 京次郎	釋清源信士	海東郡草場村	同	一九〇五	六、一八
小杉 源六	釋安詳信士	海東郡藤波村字諏訪	同	一九〇六	一〇、二三
山田 惣四郎	釋淨眼信士	海東郡美和村字篠田	同	一九〇七	四、二
高山 千代子	釋妙光童女	碧海郡旭村字平七	同	一九〇九	二、一四
板倉 千太郎	釋空教信士	碧海郡大瀨町	同	一九一三	一、二

野口 トシ子	釋妙慧童女	海部郡鍋田村新田	同	一九一三	一一、一三
林 サイ	釋妙聖信士	海部郡佐織村字見越	同	一九一六	六、一〇
若山 孫次郎三女	釋嬰念幻女	海部郡富田村字戸田	同	一九一七	七、二二
高羽 善一子	釋妙還童子	海部郡佐織村字西川端	同	一九一八	三、三一
渡邊 清春	釋清春童子	渡邊多賀次郎長男	同	一九一八	五、二七
鹿島 俊男	釋 俊 美	海部郡市江村 鹿島繁次長男	同	一九一八	一〇、九
山口 シゲ子	釋 妙 寛	岡崎市傳馬町 山口重 郎 妻	同	一九一八	一一、一
戸谷 義政	釋 義 諦	海部郡蟹江町 戸谷房次郎長男	同	一九一九	一、二〇
山田 重吉	釋 開 藏	海西郡八開村大字赤目	羅	一九〇九	二、二〇
森 爲 吉	釋 淨 教	愛知郡八木庄字中	羅	一九一一	五、七
梶原 鶴次郎	釋 普 現	海東郡佐織村大字勝幡	羅	一九一一	一一、二六
白川 一雄	釋 賢 了	寶飯郡鹽津村大字壬子	羅	一九一二	一〇、一三
若松 宗七	釋 宗 信	海西郡鍋田村大字三稻外樋出	同	一九一三	二、七

山田スミエ	釋尼妙值	丹羽郡岩倉町稻荷 山田盛太郎 妻	同	一九二九	四、二一
飯田主馬太郎	順教	海西郡開治村	フランスノ	一九〇六	一一、二七
西脇林次郎	釋德忍	東春日井郡味々村	サンノセ	一九一四	四、七
竹内常吉		知多郡横須賀町一〇六	王 府	一八九三	七、一〇
落合新太郎	墨西野決死隊員 法名無シ	東春日井郡藤岡村大紳	墨西野國トレオンと米領の 中間名も知れぬ原野に埋葬	一九〇六	一二、三〇
横田友次郎	釋善珠	海東郡藤岡村小畑	英領暹香坡	一九〇六	一〇、三一
加藤春吉兒女	釋尼妙淨	春日井郡		一九〇八	一、六
中野慶助	釋洗心	知多郡根豆志村大字樽水		一九〇八	五、二四
都築金福	釋是法	碧海郡新川町濱尾		一九〇九	五、一一
磯村富美子	釋尼妙瀧	東春日井郡水野村		一九〇九	一〇、一
林勉三郎	釋教淨	名古屋市中區下堀川町五		一九〇九	一一、一〇
長坂新作	釋善海	碧海郡旭村賢塚		一九二二	一〇、六
加藤彌市	釋光節	東春日井郡藤野村(?)		一九一三	五、二一
伊藤京一	釋諦住	中島郡祖江町字島本		一九一五	八、三
大獄スウ	釋尼妙芳	幡豆郡幡豆村		一九一六	一、一五

計二一七

第九款 愛知養生院

我が愛知縣人の最多、居住する北部加州の氣候は、其の地勢狭長にして南北二百餘哩に亘れるが故に、寒暑の度は一樣ならざるも、夏期最も熱き時に於て華氏九十五度を極度とし、冬期は二十八九度を極度とす。尤も稀には百十度以上になり又二十二三度に降ることあるも、斯の如きは年内僅に數日に過ぎず。惟ふに東京の夏期よりは緩和にして鹿兒島又は房州の冬期よりも溫暖なり。殊に大陸にして其の西南は沿岸山脈を以て圍繞し太平洋の潮風を遮るが故に、一年を通じて空氣全く乾燥す、従つて炎暑も日本の如き執拗なる蒸熱無く太陽の直射だに避くれば溫度に十度以上の差あり、如何なる炎暑の日にも樹蔭には金風の如き涼味を求め得べし。冬期亦濃尾の如き凜烈の空風無く、結氷降霜の如きも極めて少し。又毎年十一月より三月に至る五ヶ月間は降雨期にて四月より十月迄の七ヶ月間は降雨無し、或は四月上旬又は十月下旬に多少の降雨を見ることあるも、五月より九月中の五ヶ月間は全く快晴にして一滴の降雨無きを常

とす。是れ雖て北部加州がその自然に於て所有農作物に適する所以にして、従つて風土病の虞無く、自然的最健康地たるを失はず、加ふるに都鄙一般惜氣無く巨資を投じて遂行せる現代文明の衛生的設備ありて、例へば虎列拉病、赤痢病の如き猝猛なる惡症傳染病は殆ど絶無なり（昨年度世界的に流行したる西班牙寒胃症の如きは前例無し）。されば特別過度の勞働に因て惹起し、又は特別無智なる不攝生に因て自ら招致する以外には殆ど病氣に罹る虞無く、天壽を完うするに庶幾からん。

現在我が在米愛知縣人の年齢は三十歳以上五十歳以下の者多し、尤も二十歳前後の者又は六十歳以上の者もあれど、前者は最近日本より呼寄せられたる者後者は先發者中の年長者株にて、二者孰も少數に過ぎず、他は即ち米國にて出生したる六七歳以下の兒女のみ。従つて其の死亡率は極めて低く、又之れを先亡者の死因に就て檢するに、作業中不慮の怪我に墮れたる者、又は特種の災厄に罹りたる者多し。然るに最近十年以來三百餘の迎妻者を見るに至つて頓に病災死亡等の家族的厄難多きを見る、蓋し故あり、妻を迎へ家庭を成す者は、勿

論既に第一期成功の緒に在りて其の生計上家族を扶養するの資に乏しからざるも、在米本縣人の大多數は農業に従事せるもの、然るに米國の農業は總て大仕事なる大農組織にして、其の多く作業に従事する處は何れも遠く都會の地と隔りたる邊陲の片田舎に在り、附近隣接の農舎と雖も亦二哩三哩の距離を有す。假令各自に電話及自動車等の文明的利器を日常生活の上に活用しつゝあるも之れを都會生活に比すれば極めて不便なる生活状態に在り。殊に疾病には必ず都會に出て、醫藥を求めざる可からざる要あり。

本會は斯かる時勢の必要に驅られて一昨年二月現在の家屋に移轉し、同時に會員の姪婦又は病兒の收容所を新設して之れを愛知養生院と稱す。其の設備は患者十五名を限度とするものなるが故に未だ完全と言ふを得ず、依て同市の二大病院なるホワイト病院、シスター病院の兩病院と聯絡を取り、醫師、看護婦、産婆、藥劑師と特約して其の不備を補ふ。會員の之に依つて得る所のものは病院に代ふるにホームを以てする慰安と、費用を節減し得るの二點に存す殊に病院は通常一日の室料のみにて最下等三弗乃至四弗を徴するも、本院は全然室

料を徴せず、乃ち米、味噌、醬油等の主要食物原料は常置として本院より供給し只僅に洗濯料並にギヤス代の實費として一日五十仙を徴するのみ。經費に莫大の差あるを知るべし。本院創立以來、昨年西班牙寒胃症流行の際は例外として通常多き時に十名、少き時も二三名宛は断わらず入院者あり。之れを現代本縣人の大勢即妊婦出生兒の日に月に増加する傾向に徴すれば頓て本院擴張の日の近き將來に在らんことを豫期せざる可からず。

南加愛知縣人會々則

- 第一條 (名稱及組織) 本會ハ南加州ニ在留スル愛知縣人ヲ以テ組織シ之ヲ愛知縣人會ト稱ス
- 第二條 (目的) 本會ハ會員相互ノ福祉親睦ヲ計リ緩急相救フヲ以テ目的トス
- 第三條 (位置) 本會事務所ヲ加州ロスアンゼルス市ニ置ク
- 第四條 (入會及退會) 本會會員タルントスル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ幹事ニ届出ヅルモノトス退會セントスルモノニシテ若シ會費ノ未納アリタルトキハ其全額ヲ納メ然ル後退會ノ理由ヲ幹事ニ届出テ許可ヲ得ベキモノトス
- 第五條 (會員) 本會ハ正會員及ビ名譽會員、名譽贊助員ヨリ成リ本會ニ功勞アリタルモノヲ以テ名譽會員ニ推薦シ、名譽贊助員ハ本會ノ趣旨及ビ目的ヲ賛同且ツ援助セ

- 第六條 (役員) 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
會長一名、副會長一名、幹事一名、會計二名、評議員十五名
地方委員若干名
但シ他方委員ハ會長ノ必要ト認メタル所ニ置ク
- 第七條 (役員ノ權限) 會長ハ本會ヲ總理シ、副會長ハ會長ヲ補佐シ、幹事ハ本會一切ノ事務ヲ擔任シ會計ハ金錢ノ出納ヲ司リ評議員ハ會議ニ參與ス
地方委員ハ諸證明ニ關シ本人渡米後ノ履歷書ヲ作製シ及ビ倉費ノ徴收ヲナシ尙附近在住會員ノ便宜ヲ圖ルモノトス
- 第八條 本會役員任期ハ總テ一ケ年トス
- 第九條 役員ニシテ疾病其他ノ事故ニ依リテ其職ヲ探ル能ハザルトキハ役員會ノ決議ヲ以テ補欠員ヲ推選ス
- 第十條 (會合) 本會ハ定期總會臨時總會、役員臨時會ヲ開ク
定期總會ハ毎年一月七月ノ二期ニ開ク
臨時總會及ビ役員臨時會ハ必要ニヨリテ開ク
但シ臨時總會ハ緊急ニシテ定期總會ヲ待ツ能ハザル場合役員ニ於テ必要

ト認ムルトキ之ヲ開クモノトス
第十一條 (會議及決議) 本會ノ會議ハ凡テ三分ノ一以上ノ出席者ニ依ツテ成立シ決

議ハ凡テ出席員ノ過半數ヲ以テ決議ス

但シ賛否同數ノ場合ハ會長ニ任ツテ賛否ヲ決定ス

第十二條

(會員ノ義務) 本會ノ會費ハ一ケ年金ニ弗トシ之ヲ前納スルモノトス

第十三條

(會員ハ原籍地及ビ現住所ヲ本會ニ通知シ置クモノトス
(基本金及經常費) 本會ノ經常費ハ會費及特別收入ヲ以テ之ニ充テ其殘餘

金ヲ以テ基本金トナシ之ヲ確實ト認ムル銀行ニ保管スルモノトス

但シ基本金ハ總會ニ於テ承認ヲ得ルニアラザレバ使用スルコトヲ得ズ

第十四條

(本會ノ責任) 本會會員ニシテ疾病若クハ不時ノ災厄ニ罹リタルトキハ本

會ハ之ニ對シテ應分ノ援助ヲ與フルモノトス

第十五條

(制裁) 本會會員ニシテ本會ノ名譽ヲ毀損シ又ハ會員タルノ体面ヲ汚シタ

ルモノハ役員會ノ決議ニ依リ之ヲ除名ス

第十六條

(證明) 本會ハ本會會員ノ諸證明ニ關シテ羅府日本人會トノ連絡ヲ有ス

第十七條

(補則) 本會ノ規則ハ總會ニ於テ出席者三分ノ二以上ノ同意アルニアラザ

レバ之ヲ變更スル事ヲ得ズ

第十八條

本會役員ハ役員會ニ於テ必要ト認メタル場合ニハ本會規則ニ抵觸セザル

執務細則

ハ每年六月卅日迄ニ納入スル事二年以上滞納者ニシテ縣人會ニ其理由ヲ

陳述セザル者ハ退會者ト認ム

再入會

縣人會ニ會費滞納ノ理由ニ依リ籍ヲ脱セル者が再ビ入會セントスル時ハ

證明

前年度及今年度會費ヲ前納ノ上入會ヲ認ムル事

本會ハ羅府日本人會ヲ經テ帝國領事館ヨリ下附サルベキ諸證明ヲ取扱フ

ノ權能ヲ保留スレバ會員一同ノ希望ニ依リ證明ス

慈惠

本縣人ニシテ非會員ガ證明ヲ出願スル場合ニハ本會ニ加入セシメ一ケ年

移動

分ノ會費ト同額ノ寄附ヲ要求シテ證明ヲ爲ス

歸朝

本會員ノ不時災難及ビ病氣ノ際ハ縣人會ハ相當ノ援助ヲ計ル事

非會員ノ同縣人ニ對シテハ直接ノ援助ヲ與ヘザル事

會員ノ移動ノ際ハ之ヲ届出ヅベシ届出ナキ時ハ之レヨリ生ズル縣人會ノ

義務ナシ

會員ノ歸朝期間ニケ年ニ達シ再渡米セザル者ハ退會者ト見做ス

▲地方評議員ノ権限

在留地方内ノ會員ヨリ會費ヲ徵收シ新會員ヲ勸誘シ且區域内ノ會員ガ證
明ヲ縣人會ニ請願スル際ニ請願者ノ資格ニ關スル資料ヲ供スル事

▲南北愛知縣人會聯絡條件

- 一、故國ノ官憲ニ對スル步調ヲ一ニスル事
- 二、兩縣人會管轄内ニ於ケル縣人ノ風紀矯正ニ關シ方針ヲ一ニスル事

右南加愛知縣人會々員は千九百十八年三月現在にて壹百〇壹名あり

北米愛知縣人誌

終

附錄

事業家列傳

農業家 安達健重氏

海部郡七室村大字伊福
明治廿一年四月二十六日生

氏は幼より活潑身體頑強長するに及び志を海外に立て常に其の機を窺ひ居るに會々郷人の米國に渡りて大いに發展したるを聞き、渡米の念禁する能はず、遂に明治三十九年日露戦争の終りたる時渡米せんとしたるも、時恰も米國內にては排日熱の最も熾烈なる折柄として容易に意を果さず遂に意を決して墨國に渡れり。墨西哥國に居ること僅に六七ヶ月にして翌年密かに米國加州に入り始めて素志の貫徹したるを悦ぶ、其後サクラメント河下に下り一介の労働者となりて諸所に活動したるが、氏の性到底一労働者として甘んずる能はず、直ちにグランド島に入り四百英町を折半契約の下に郷人若山榮次郎氏と共同にてアスバラカスの栽培に着手す、されど初め二年は損失を招き三年目より多大々往來の利益を得たり、爾來同地所を經營すること十年其間氏はその家庭上に喜憂交したるあり、大正六年一時歸國し良縁ありて華燭の典を挙げ同年冬夫婦相和して再び米國の人となりぬ。先づベークン島に移り玉葱を耕作し、昨年はグランド島に入りて種子物栽培を營み多大の収益を得たり。氏は春秋漸く富みて内に良妻の内助あり

農業 安藤宗五郎氏

中島郡一宮町字柳町
明治十二年三月二十四日生



氏は明治三十七年の春渡米し桑港に上陸し直ちに櫻面都平原に到り一介の労働者となりて諸所に轉勤すること四ヶ年にして相等の資金を得、英領加奈太に到りしも國情に通せざるため遂に一の機會をも得ずして空しくシヤトルに到り材木會社に就働すること一ヶ年後スポーケン、ポートランド等の地方に鐵道工夫として就働すること

約半年にして再び加州スタクトン地方に到りて勞働せり。
四十四年十一月エルクロヱグに於て土地二十英町を購入し葡萄果物を栽培し大正三年フワイオークス白人の密柑園の人夫長として四ヶ年働けり。大正七年二月キャスマネに八十英町のハツプス園を經營し本年はホース會社百五十英町のハツプス園經營の外、人夫監督を爲しつゝあり

農業家

阿部悦三郎氏

原籍 海部郡立田村字早尾 明治十四年生
現住所 富中

氏は同姓榮九郎氏の二男にて千九百年一月桑港に航し直に北加櫻面都平原の農園に入る。氏は先づ櫻河々下のアンドルス島なるテスベル農園に入りて勞働に從事し一ヶ年間之を繼續す、翌千九百一年アラメダ郡ナイルスの植木屋に入りて六ヶ月間就働し、轉じて再び櫻面都平原の人となり、タイラー島なるポーマン農園に入り同所に就働すること二ヶ年。千九百四年櫻府近郊のパーキンスのホースト兄弟會社所屬なるハツプス園五十英加を請負ひて之れを耕作したるを始めて、氏は大にハツプ栽培業の經驗を得且つ趣味を以て是よりハツプ栽培業を専門としたり。即千九百五年キャスマネに轉じて同地のロネー、ハツプ園七十五英加を七人共同にて請負耕作を爲し、翌千九百六年同所なるホースト兄弟會社所屬ハツプ園百五十英加を八人共同にて請負耕作をなしたり。千九百七年は同所に在る同會社ハツプ園二百四英加を十二人にて耕作し、翌千九百八年は單獨にて同會社のハツプ園百二英加を耕作し翌年に繼續す。爾後メーヒューズに於て果物園の經營に着手して大に成功を收め、本年六月實家訪問のため歸國して今尙は在郷中なり。

農業家

後藤庄五郎氏

海部郡佐藤村大字南河田
明治十八年生

氏は日露戦争の初年即ち明治三十七年に渡米桑港に上陸せり、先づ外國に於て事業をなさんには國情に通じ語學の修得を必要となし、直ちに白人家庭にスクールボーイとなりて就働すること一ヶ年、翌三十八年はサリナスに到り大根栽培の下請を爲して相當の貯金を得たり、三十九年ブラダホード島に下り就働者となりて能く任務を盡し大いに技倆を認められたりといふ、四十年フランク島に移り地所を借り薯、玉葱を獨力經營したるが不幸にして大利を博する能はず、四十三年オーワード七番地にて五百英町の大農園を折半契約にて借り馬鈴薯、玉葱を栽培したり、本年はサンノゼ市附近に至り有名なるシーシーモース氏の地所五百五十英町を借地し種子物専門として經營せり其の種子物の種類實に八百餘種に及べりと云ふ。氏は機略に富み縦横無盡に應用する才略家なれども、地の利を得ざるにや未だ大利を博すること能はざるは寧ろ世人の不思議となせる所なり。



農業家

後藤庄太郎氏

原籍海部郡佐藤村字楠木 明治十七年生
現住所 GRIMES RICE CO., GRIMES, CALIF., U.S.A.

氏は猶額大の島帝國にのみ躊躇するを快とせず、鵬志を懐き青雲に駕して千九百二年北米の新天地に入る。然るに世界最優の沃野なる北米の地や天産物無盡蔵なり故に農に如かずと爲し直に北加櫻面都平原ピグスの地に到り果物園に入る。尋いて若干英加の果物園を收穫分配法に依り六ヶ年間營經して大に得る所あり。去つてコルサに行き多數の労働者を率いて山地の開拓事業に従事す。千九百十七年及同十八年度の二ヶ年は同地に四百英加の玉蜀黍を收穫分配法にて經營し大に利潤あり、本年度はクライムスの地に同志と共に大農園業を起したるが、其の耕地面積は三千二百英加にして内四百英加にはバレーを作り、他は悉く米作なり氏の鵬志、亦大に成れりといふべし。

農業家 平野倉次郎氏

海部郡津島町大字愛宕
明治十二年四月二十七日生

氏は明治三十三年の春渡米し桑港に上陸せり、直にサクラメント河下に下り諸所に就働したる後三十四年ポーマン島にて四百英町の大地を折半契約の下に玉葱、馬鈴薯等を栽培し翌年はグランドアイランドに移り一百英町を折半契約し之れに豆を耕作し夫れよりシター島に於て又一百英町に豆を栽培し毎年相當の利益を得たる故尙ほ事業の擴張を圖りコルサ郡グランド島に於て三人共同して一千英町を現金借地し毎年殆ど五千弗以上の純益を得たり、大正三年錦を故國に飾り滞在中月下氷人ありて良妻を娶り翌四年再び米國の地に入り、従前の事業を繼續し又々大利を博したり。されど氏は再び故郷に歸るの止むなきに至りぬ、そは先きに同伴したる最愛の妻女は不幸にして黄泉の客となり氏は其遺骨を墳墓の地に葬らんが爲め、りき、然るに氏の大事業を經營するには到底獨身にて維持すること困難なれば再び良縁の下に妻女を得夫婦相携へて渡米し前住地に還りて同園を繼續し昨年度より別に業務を擴張して百英加の砂糖大根を栽培しつゝあり氏は實に北加邦人農業家中の屈指なり。

農業家 平野太左衛門氏

原籍 海部郡津島町字愛宕 明治十三年生
現住所 R.F.D. BOX 164 CLARKSBURG, CALIF., U.S.A.

家郷を辭して天涯に向ふは情に於て忍びざるものあり、此の意義に於ける海外移民は實に慘憺たる人生の悲劇なり、されど一面には日本の如き小天地に踟躕して甚太しき生活難に饑餓たらんよりは、寧ろ畢竟の新天地に雄飛して新運命を開拓せんこと亦た男子の快事たるなり。平野氏は當時愛妻を迎へて一男一女を擧げ團欒の家庭を保ちて人生を樂むの境遇に在りたるにも拘らず、夙に渡米を思ひ立ちて止む能はず、然るに當時日米の國交日に疎隔して或は風雲の急を告げんとし、故に日本當局は移民の渡米を許さず、此時恰も好し東洋移民會社又は墨西哥移民會社等にて墨西哥國に契約移民を送るの擧あり、於是我が平野氏は蹶起家庭の愛着を斷ち單身契約移民として千九百六年墨西哥に航す、されど氏の目的地は天富無盡藏の北米合衆國に在り、故に氏は墨國に到るや直に契約地を脱走し墨國內地を冒險旅行して同年目的地の米領に入る、氏は直に北加に來り現在の地クラクスバークに搾乳業に従事する數年、蓄財して故國より妻子を迎へ四年前より梅村國三郎氏と共同にて現に六百五十英加の豆作に従事しつゝある邦入有數の大農家たり。

農業家

平野太三郎氏

海部郡津島町大字愛宕

生

氏は明治三十三年渡米桑港に上陸せり、同市家屋の壯嚴街衢の井然其の他文明の利器應用に驚嘆し實に金の國なり金を得ざれば天下何事をか爲し能はんぞ茲に氏は蹶起奮勵し以て金儲けの緒に就く即ち勞働界に身を投じ勤儉力行するこゝ六ヶ年にして、貯蓄したる金額千を以て數ふるに至る、三十八年グランド島にて三百五十英町を折半契約の下に借地し大豆、石刀柏園を經營し數年間繼續して少からず利益を得たり、大正四年良縁ありて妻女を故國より呼寄せ益々奮闘努力し事業も愈々幸運に向へり、大正三年サター郡グランド島に移り七百五十英町を折半分配契約の下に借地し大豆砂糖大根を耕作し少なからず利益を占めたり、目下コルサに於て六百三十英町に大豆、砂糖大根を栽培しつゝあり氏は性温厚にして思慮に富み決して焦慮することなく、己れの定めたる方針に向つて着々進行するが故に、眼前の利に走る世の多くの人の如き損失を招くことなし、今や氏は夫婦相和し家庭圓滿の裡に一子を擧げ和氣霽々の間に益々奮勵中なれば近き將來に於て大いに見るべきものあらん。

農業家

平野三藏氏

原籍海部郡津島町字愛宕
現住所GRAND ISLAND, COLUSA CO, CALIF. U.S.A.

甫水井上先生に奇抜なる警句あり、大石湖逆流大人湖逆運といふ。蓋し小石は流水と共に流るゝも大石は然らず、克く奔流に支へ流水の砂を洗ひ去る毎に轉々上流に轉廻してその流れに溯り、小人は常に宿命に飄弄さるゝも大人は然らず、克く逆運に逆行し窮地に通路を拓開して新運命を把握すと謂ふ。我が平野氏は夫れ大人か、幾多峻烈の生活難に汲々たる郷黨と宿命を共にせず、千九百六年蹶然郷關を去つて墨西哥に航すされど墨西哥國は人文半開にして産業興らず又風土惡しく瘴癘頻にして永住の地にあらざるを看取するや去つて米領に向ふ、然るに旅費豊ならず墨語を解せず、於是氏は同志十數名と決死隊を組織し冒險旅行して米領に到る。氏は米領の人となるや直に北加河下のグランド島に入り、四人共同にて三百五十英加の豆作及アスバラガスを栽培する事數年、千九百十二年現住地メリット島に移住し從兄平野氏の共同者となりて七百英加の豆作に従事したるが、偶々歐州大戰の勃發して頓に豆價の暴騰するに會し大に家産を成す。千九百十四年故國より迎妻し、昨年家郷を訪問して再航し依然同園を經營しつゝあり。

農業家 堀田鎌次郎氏



原籍 海部郡佐織村字草平 明治九年生
現住所 R. F. O. WALNUT GROVE, CALIF., U.S.A.

氏は千八百九十三年十七歳にて渡米す。桑港に上陸するや、面都平原の農園に入り、アキヤンポーなるパンギヤルダー植木園に就働したるを始めとして労働界に在ること約三ヶ年。千八百九十六年櫻府に旅館業を起したるも之を中止し、千八百九十九年太田正芳なる人と共同にて炭鑛人夫請負業を爲し砂糖大根耕作業の勃興したるにて氏亦た砂糖大根栽培業に轉ず。去つて桑港に蕎麥屋を開業して繁昌したるが這間既に河下農業に主力を注ぎ。爾後氏はタイラー島に從弟若山繁二氏と共同にて二百五十英加のアヌバラガスを栽培して成功し現にライヤ島に五人共同にてアヌバラガス栽培に従事しつゝあり、嘗て河下日本人會長たり現に愛知縣人會副會長なり。

雜商 堀田道亨氏



原籍 中島郡祖父江町字野田 明治十八年生
現住所 141 HEFFERNAN AVE., CALEXICO, CALIF., U.S.A.

氏は千九百十一年三月沙港に上陸して初めて米土を踏み、ポートランド市を経て南加に到り一介の勞働者として南加の農園に働くこと四ヶ年。斯くして蓄積したる貯金にて羅府にハリソンと稱する旅館を買受け之れを經營すること四ヶ年亦た大に利益を得たり。氏は更に第二の劃策を樹んとして羅府を出で、帝國平原及米墨國境の各地を視察したる結果今のカリキシコに地を相して是に移住し、球戯場煙草店兼水物店を開業したり。カリキシコは米領加州の南端に位し米墨國境の新開地にて兩國人の來往繁く、人口僅に七千を超えざる一小都邑なるも頗る繁華を極め官民不瑟にして堀田氏の如き手腕家の活躍に適する地なり、氏は昨年母國より夫人カマ子を迎へて琴瑟相和す。

農業家 林喜代次郎氏

原籍 海部郡鍋田村字操手新田 明治九年生
現住所 歸 省 中

氏は千九百年、猫額大の島帝國に嫌焉として決然家郷を辭し大に爲すあらんとして北米大陸に航す。氏の目的は蓄財に在りて手段を撰ばず、されば桑港に上陸するや金門灣東なるアラメダ、レクレメーションの砂糖大根園に入りて労働に従事したるが、會々鐵道工夫の比較的賃金の高値なるを聞きて前記の大根園を辭し去つてネバタ州に入りて之れに従事したり。されど單純にして消極的なる鐵道工夫はその將來に見込無しと看取したる氏は復去つて櫻府平原の沃野に入り河下農園の就働者となれり。即千九百一年櫻府對岸ヨローの大梨園に梨採として就働したるを手始めとして其の翌年はアキャンボの果物園に就働し、千九百三年はフランスノに轉じて就働す。斯くして蓄積したる資本を以て千九百四年櫻河流域ライア島に六人共同にて二百五十英加を借地し豆作に従事したり、翌千九百五年は同島に三人共同にて現金借地八十七英加を經營したるが不幸水害に遭ひたり。されど同園を棄てず翌年更に之を經營して成功し、千九百八年より單獨同園を經營して彌々成功を收む、爾後アイルトンに移住してアスバラガスを栽培し今は歸省中なり。

農業家 林兼次郎氏

原籍 海部郡鍋田村字三稻新田 明治十二年生
現住所 VERONA, SUTTER CO, CALIF, U.S.A.



氏は同姓喜代次郎氏の實弟なるが資性着實にして温厚豫て實兄喜代次郎氏の業務を補佐せんとして渡米を志したるも當時既に日本外務省は米國移民を制限したるため容易に渡米旅行券を下附せず、然るに千九百六年東洋移民會社が墨西哥移民を募集したるに會し機逸すべからずとして墨西哥に契約移民として渡航したり、されど氏の目的は米領に入るに在り、故に氏は墨西哥に到るや遂に非常手段を以て移民會社との契約を破棄し墨西哥内地を跋渉して同年七月米領に入り漸にして實兄の許に達しその家業を補佐したり。千九百十五年佐藤助三郎氏以下三名と共同にて今のペロナの地に現金借地三百五十英加にピーンヅを栽培して今日に至り、大に成功を贏得たり

農業家

日比野丈太郎氏

海部郡津島町大字新開
明治十三年二月一日生

氏は故國に於ては織物業に従事して頗る熱心なりしと雖我が國の經濟界未だ振はざるの時事業意の如くならず茲に於て私に農に就かん事を志せり、然れども農に従事せんには大農組織に若くはなしと遂に意を決して明治三十六年死馬も躍るてふ四月意氣揚々太平洋を航して桑港に上陸せり、然るに英語を解せざれば企業し能はざるを、り直ちに學僕者となりて白人家庭に就働したるが明敏なる氏は農業及常用の語に支障なきに至りしを以て直にサクラメント河下グランド島に下り折半契約の下に農園の經營に従事し居ること二ヶ年にして三十九年ライヤ島に移り百六十英町を宇佐美氏と共同にて借地し之れに果物、大豆及へいを栽培し相當の利潤を得たり。其後再びグランド島に來りジョン氏の土地百八十英町を折半契約し大豆、種子物を耕作し純利實に一千五百弗餘を得たり、本年は櫻府附近グランドに於て三百英町を現金借地し大豆及び種子の栽培に着手したり、氏は頭腦頗る明哲にして機を見ること敏、又性活達にして元氣潑潑たり、時に戲言諧謔を突發して衆人を抱腹絶倒せしむることあり。

農業

服部徳次郎氏

海部郡七室村大字桂
明治七年十月生



服部氏の家庭

氏の渡米したるは明治三十八年にして桑港に上陸するや直ちにサクラメント河下ウオナツグロウに到り労働者となりて諸所を活動したる後、牛乳搾取所に就働して大いに伎を練り其翌年メリット島に轉じて牛乳搾取所に入り折半分配の契約にて同業を開始したれども後再び就働者となりて諸所に轉々し、大正四年愈々キング島に於て折半契約の下に玉葱を栽培せり。其年故國より妻女並に長男利康を呼寄せ相和して事業に着手し利すること僅少ならず殊に昨年の如きは戦争の餘波を蒙り諸物價騰貴と共に農産物も亦破格の高値なりしかば多大の利益を得たり、明年度よりクラクスパークにて三百英町の土地を折半にて契約し種子物及大豆の耕作を栽培する計畫中なり

農業家 細川伊三郎氏

細川氏の家庭



海部郡美和村大字小場方
明治十九年四月八日生

氏が渡米したるは明治三十九年
然かも六花紛々たる師走の頃なり
き、バンクハー港に上陸して直ち
に同地に於ける材木鋸挽事業に従
事すること一年有餘、に若干の
資金を得たれば加州に下りて友人
と共同し、ジャシー島に於て三百
英町を借地しセルリーの耕作を始
めたり。居ること二年にしてシタ
ーチン島に移り借地契約の下に再
びセルリーの栽培に着手したれども氏の希望は之れを以て満足する能はず遂に
都會生活に意を決し桑港に出て名古屋ホテルを經營したり、されど氏は再び耕
農に従事せんとして之れを他人に譲與しシターチン島の農園に還りて借地し嘗て
經驗したるセルリー栽培を専門として大いに努力し遂に今日あるを得たり

北米愛知縣人會幹事 濱田徳市氏

濱田氏父子



原籍 海部郡立田村字早尾 明治二十二年生
現住所 P.O. BOX 85 SACRAMENTO, CALIF., U.S.A.

氏は豫て渡米を志望したるも、
當時既に日本の外務當局は渡米移
民に制限を附したるため容易に海
外旅券を發給せず。恰も好し千九
百六年盛んに墨西哥移民を勧誘す
るあり、氏は好機逸す可からずと
して之に應じ契約移民として同年
墨西哥に到る。されど其の目的は
墨國に在らず米國に在り、遂に手
段を講じて同年九月米領に入り轉
じて北部加州に來り直に河下の農園に入り労働者として働くこと數年。千九百
九年より四名共同にてグラント島デナシ氏農園百六十英加を收穫分配法にて經
營したるが同十四年作業中過つて大負傷を爲し療養のため一旦歸國し迎妻して
翌十五年に再渡を爲したり。爾後各地に就働中本年一月より北米愛知縣人會幹
事として就職したり

商業家 伊藤鞍吉氏



原籍中島郡平和村字六輪慶應三年生
現住所 1275, EL DORADO ST., STOCKTON, CALIF., U.S.A.

氏は千八百九十一年に渡米し、其始めアキャンポーなるバンギエレダー植木會社に在りたる當時より同縣人新渡米者のために世話を爲し。後河下ウオーナツグロウツに鶴見藤四郎と共同にて食料店兼旅館を創め、河下邦人開拓者の便益を圖り、去つてブラダフォード島に五百英加の農園を經營し傍ら食料雜貨店を營む、其後フランクスタクトン市に移り又墨西哥にス島に移り又アンチオークに支店を設け、更にスタクトン市に移り又墨西哥に棉作に従事したるなど氏は稀に見る精力絶倫の活動家なり。今やスタクトン市に繁昌しつゝある食料店伊藤商店は長男新次郎氏に一任し氏は専ら農産物の仲買に従事す、殊に氏は公共心に富み現に北米愛知縣人會須市支部長たり

農業 伊藤猶次郎氏



伊藤氏と夫人

中島郡萩原町大字荒神
明治十年二月十五日生

氏は明治三十二年農業を目的として渡米せり、上陸するや直ちに櫻面都市に到り後程なく河下ヴォデンに於て一千英町のアスパテガス及果樹園就働者の監督者となり傍ら栽培の方法を研究し後獨力經營せんとしたるが氏の人爲を知れる園主は氏を惜みて放さず遂に同園に留まること五ケ年、三十七年に故國を訪問し翌年十月再び米國の人となり、グラント島に於て、シャレー氏の地を收穫高の折半分配契約の下にアスパラガスを栽培すること五ケ年に及びぬ、大正元年家事整理のため再び故國に歸り翌二年又々渡米し、現にライヤ島に二百五十英町を現金借地し種子物を耕作しつゝあり、氏は絶倫の精力家にして人を使用するに才能あり、又内に愛妻を擁して家庭を楽しむ。

農業家

伊藤米次郎氏

原籍海部郡八開村字江四
明治十一年生

十三歳の青年なりしが資性温厚にして不拔の精神あり、爾來十年一日の如く勵精不撓、這間克く米國農業を實驗し又勞銀を蓄積して今や獨立的大農家となる、即ち一昨年より櫻河流域ライア島に松川信正氏と共同にて六百英加のアスバラガスを栽培しつゝあり、氏や春秋漸く富む獅子吼するの日は必ず近き將來なるべし

獅子兒を産み三日にして其兒を

千仞の壑中に陥し攀り來るものは

哺育し然らざるものは敢て顧みず

と謂ふ空手にして北米の天地に新

運命を把捉せんとする者猶ほ獅子

兒の壑中に於けるが如し。我が伊

藤米次郎氏は千九百一年空手にし

て北米の人となり、桑港に上陸す

るや直に北加ウオーナツグロヴ

なる堀田農園に入る。當時氏は二

氏は幼より海外思想に富み嘗て海軍に志し某校に受験したること二回、不幸にして合格せず、茲に於て決然意を翻し米國に航して大いに雄飛せんことを家嚴に諮る。家嚴曰く「往け、日本男子の本領を發揮せよ」と明治二十三年六月方に就働すること二ケ年にして農業法及日常英語を修得したる後大に展開せん事を期し、明治三十五年コトランドに百五十英町の果樹園を獨立經營し、大いに技倆を發揮したり。同園を經營すること八ケ年間にして相當の利益を得、後四十三年クランド島に移り二百英町を經營し現に同園にビーンツを栽培しつゝあり、氏は温厚篤實の人加ふるに俠氣あり。今日まで人の窮乏を救ふために喜捨したる金額は實に數千弗の多きに及ぶと雖も氏また一度も之を人に語らず、又廉直にして虚榮を欲せず嘗て妻を求むるに勞働服を着したる寫眞を送り虚榮に憧憬れざる婦人を求むるの意を諷したり。此一事を以て氏の人爲を知るに足らん。今や家業益々榮へ夫人亦令聞あり、氏の前途は洋々たる春海の如く期して待つべきものあり。

農業家

伊藤鎮吉氏

中島郡平和村大字東城
明治十四年三月生

氏は幼より海外思想に富み嘗て海軍に志し某校に受験したること二回、不幸にして合格せず、茲に於て決然意を翻し米國に航して大いに雄飛せんことを家嚴に諮る。家嚴曰く「往け、日本男子の本領を發揮せよ」と明治二十三年六月方に就働すること二ケ年にして農業法及日常英語を修得したる後大に展開せん事を期し、明治三十五年コトランドに百五十英町の果樹園を獨立經營し、大いに技倆を發揮したり。同園を經營すること八ケ年間にして相當の利益を得、後四十三年クランド島に移り二百英町を經營し現に同園にビーンツを栽培しつゝあり、氏は温厚篤實の人加ふるに俠氣あり。今日まで人の窮乏を救ふために喜捨したる金額は實に數千弗の多きに及ぶと雖も氏また一度も之を人に語らず、又廉直にして虚榮を欲せず嘗て妻を求むるに勞働服を着したる寫眞を送り虚榮に憧憬れざる婦人を求むるの意を諷したり。此一事を以て氏の人爲を知るに足らん。今や家業益々榮へ夫人亦令聞あり、氏の前途は洋々たる春海の如く期して待つべきものあり。

農業家 伊藤常次郎氏

海部郡永和村大字善田
明治五十年生

氏は故國の農業の到底大利を博する能はざるを察し米國の如き大農組織の下に活躍し以て日本男兒の島國根生を覺醒せしめんとの心念密かに燃えて休まず即ち明治三十七年行李を負て米國桑港に上陸せり、青年の猪突的意志と異なり確信と希望とを有する氏は一日も徒過するを許さず桑港市街の美も壯觀も敢て網膜には映せず直にサクラメント河下コートランド町フランクソンに至り故國にては比較的少なき牛乳搾取に従事し勤儉力行能く主人の寵を受け他就働者の摸範となり居ること七ヶ年の後クラクスパークに至り一百六十七英町の外七十五英町及九十英町の大地を現金借地し豆類及種子物を栽培し他に同縣人梅村氏と共同して二百三十英町を折半契約の下に大豆を栽培し、又別に縣人間野定吉氏と共同にて二百五英町を現金借地し大豆栽培を行へり。於是氏の經營反別は實に七百六十七英町の大面積に及べり、我が邦人在米者約十萬と唱へ直接地主と契約して農業を經營する者少なからざるも現金借地にて約八百英町の大地を經營する者蓋し大農株なりとす、氏が出郷に際して豪語したる抱負の實現は必ずや近き將來なるべし。

農業家 石垣宗十郎氏

石垣氏と夫人



原籍 海部郡八開村字開治 明治十二年生
現住所 島中

氏は千九百年に家郷を辭して北米大陸に航す。その桑港に上陸するや當時未だ北米に於ける邦人農業界の發達せざりし時代にて在米邦人の多くは農園労働に従事したるが氏も亦た等しく農園労働者として各地に就働し、千九百二年カタール島ニストラス農園に入り百五十二英加の豆作及アスバラガス栽培に従事したり、氏は斷じて投機的起業を爲さず同園に在る十八年間の久しきに及びて成功を贏得たり。千九百十三年歸郷して迎妻し再度米を爲して同園を經營したるが本年又復歸郷して實家に靜養中なり。氏は資性温厚篤實にして弟妹を愛し二弟一妹を米國に呼寄せて民族の海外發展に資す。又公共心に富みて同郷者間の信望あり現に北米愛知縣人會參事員たり。

農業家 石垣百太郎氏

原籍海部郡八開村字開治明治二十三年生
現住所 P.F.D. BOX 72A WAFNUT GROVE, CALIF., U.S.A.

氏は千九百零六年墨西哥國を經由して米領に入り尋いで河下サター島なる實兄宗十郎氏の農園に投じたるが抑も氏は本書後編第三章第三節に叙したる墨國經由者中殊に決死隊を組織して墨國內地を徒歩にて跋涉し、會々名も知れぬ大河のために一行の前途を遮らるゝに當つて氏は挺身その大河に瀕踏して遂に一行を無事に渡したる當時の勇者たるなり、頓て實兄の農園に入るや扶けて實兄の業務を擴張し、尋いで其の共同經營者となりて、百五十二英加の豆作及アスバラガスの栽培に従事し、實兄の範に倣ひて堅實を旨とし嘗て投機的起業を爲さず着々として蓄財に努む。千九百十六年錦衣して家郷を訪問し、この時良妻を娶り相携へて翌千九百十七年米土に還航し再び前記實兄の農園に復歸して經營今日に至る。本年五月實兄の歸國するやその後繼者となりて今や同園は氏の單獨經營たるなり。由來氏は資性豪氣にして膽略あり殊に農園經營の才に長ず。而も年齒僅に而立に達す、漸にして斯業の經驗に富み天資の才能を發揮するに至つて益々前途有望たり、又夫人令聞あり内助の力少なしとせず、此の將來や實に期して待つべきものあり。

牧畜業

石原吉太郎氏

海部郡佐織村大字大野山
明治十年十月二日生

氏は郷人某の米國より歸り米國農業の宏大にして有望なる事を語りたるを聞きて渡米の念起り遂に明治三十九年渡米し桑港に上陸せり、是より一介の勞働者となりて諸所に轉働し農業組織を研究すると同時に資本蓄積に留意したれば四十四年には愈々企業する事を得るに至れり即ちレッドブラフ村に於て牧畜を起せり、蓋し氏は歸國後我が國に於て牧畜業を奨励せん目的に外ならざりきと云ふ、大正元年現在のコルサに移り従前の事業擴張の目的にて同じく牧畜に従事し、大正四年別に三百五十英町を現金借地し大豆の栽培をなし傍ら從來の牧畜業をも擴張し共に利を得たること決して僅少ならざりしといふ、其後一度故國を訪問し良縁ありて妻女を娶り大正五年手を携へて再び米國の人となり直ちに従前の農園に復歸して現に同園を繼續中なり。

氏は性温厚にして決して人と争はず又忍耐力に富み會々失敗することあるも毫も意に介せず、寧ろ失敗は成功の基として益々奮勵するの人、其事業の發展亦決して故無しとせず

農業家 石原常九郎氏

石原氏の家庭



海部郡神守村大字大木
明治十七年七月二十五日生

氏は満洲の野に露軍を膺懲したる荒武者にして明治四十年郷人と共に渡米し桑港に上陸せり。直ちにマテナスに赴きて就働者となり更に諸所の農園に活動すること六ケ年、軍隊教育を受けたる氏は其の間よく勤儉力行、不撓不屈の精神を以て事に當り、人をして軍隊教育の尊重すべきを知らしめたり、翌年同地にて葡萄園百二十英町を大正三年櫻府日報社主催觀光團員として母國を訪問し滞在中良妻を娶り、翌三年三月相携て渡米桑港に上陸しアキャンポーに到り現在經營しつつある葡萄園二百五十英町を現金借地し奮闘努力の結果其の効年と共に表はれ殊に昨年の如きは大戰の影響を受け農産物の價格騰貴の爲好結果を呈せりと。

農業家 稻垣國次氏

稻垣氏の家庭



原籍東春日井郡味岡村字二重淵
現住所 DL PASO, SACRAMENTO, CALIF., U.S.A.

氏は千九百四年十二月沙港に上陸して直に桑港に到り白人家庭に就働しつゝ英語を學ぶ事三年千九百六年四月櫻府平原の沃野に入り一介の勞働者として各地の農園に働くこと四ケ年。漸にして加州農業の經驗を得るや千九百十年メリケン河畔ホースト會社の所屬なるハップ園二百英加の耕作を請負ひたるより事業界の人となり尋いでグラント島及アイルトンに孰れも百數十英加のアスバラガス園を經營し、更にニューホープ。ホーランド等の各地に馬鈴薯、玉葱等の大農園を經營し現にデルパンに六十二英加を借地しハップ及菘蓍草の栽培中にて、デルパン農業組合長及愛知縣人會評議員たり。千九百十二年夫人八重子を故國より迎へ琴瑟相和して讓司、勉の二男あり。

旅館業 市野式三郎氏

原籍海部郡蟹江町 文久二年生
現住所 P.O. BOX 326 WALNUT GROVE, CALIF., U.S.A.



八年今の丸一旅館を起して克く現在の繁榮を成したり。

先人の詩に『人生五十無功耻 花木春過夏已中
満室蒼蠅拂難去 好覓禪榻眠清風』と謂へる
あり、甫水井上先生その韻に和して、『人生五十
可成功 恰是春過夏已中 満室蒼蠅拂難去 好敲
北極起寒風』と改作したり。我が市野氏は千八
百六十二年四十三歳のとき夫人タカ子を携へて
北米の大陸に向ふ恰も是れ人生の春過ぎ夏已に
中じて好し北極に寒風を敲くの勇者なり。氏は
最初布哇に航し留る事一年、尋いで桑港に轉航
したるが、桑港は當時排日黨跋扈し邦人に非禮
の地なるを屑とせず在る事僅に半歳にして前記
ウオーナツグロヴに居を定む。その始め理髮
業を営む事三年にして數千金を蓄積し、千九百

農業者

加藤梅三郎氏

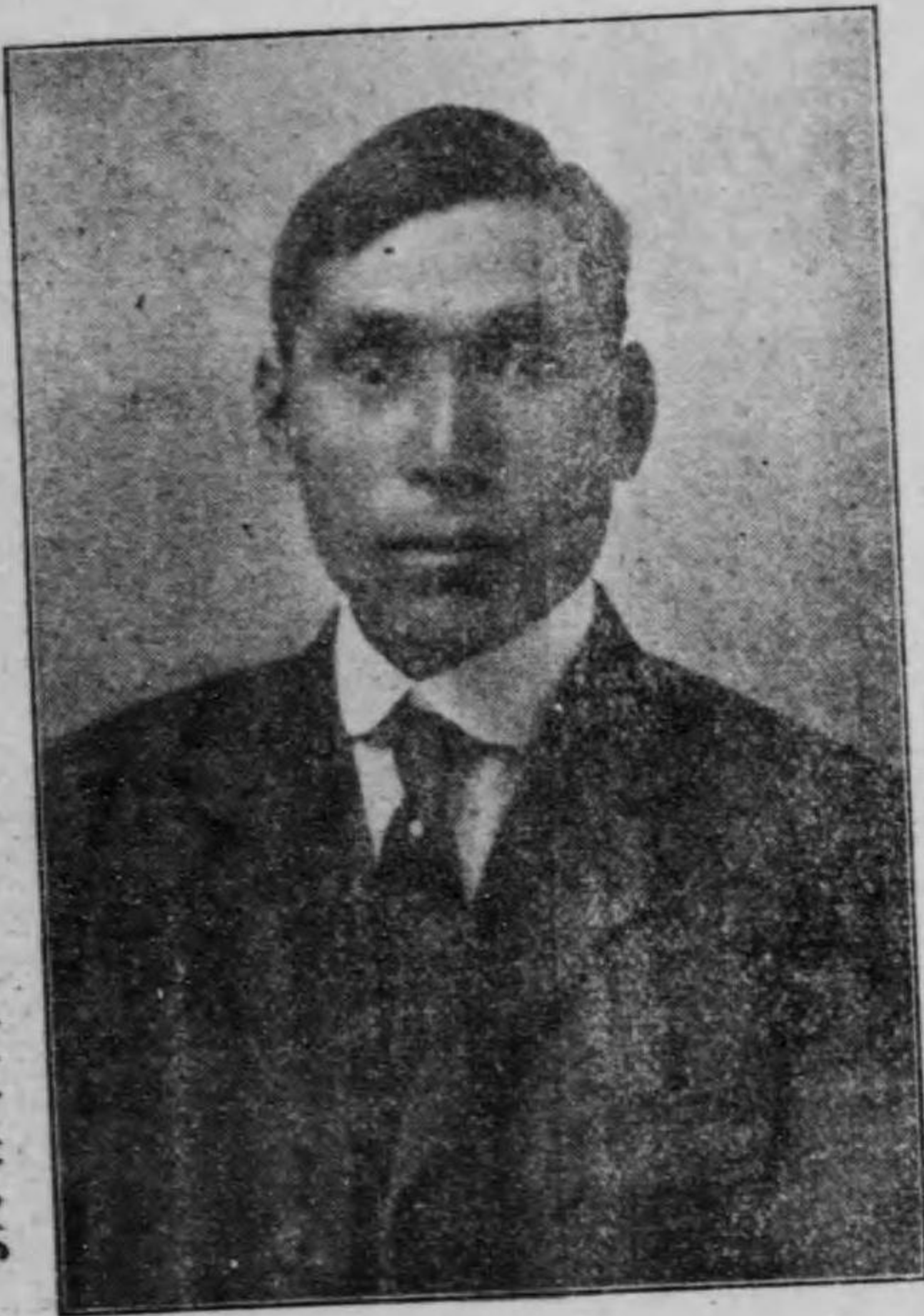
中島郡萩原町大字築込
明治八年十一月二十二日生



氏が米國に渡航したるは明治三十七年にして桑港に上陸するや直ちにフアイオークスに赴きエッチェー、ハウンの柑橋園に就働すること七ケ年、其の間に於て柑橋栽培の方法を會得したり。其後四十二年河下グラント島に移りシヤラム氏の地所五十英加に收穫高折半の契約にてアスバラガスを栽培せしかど之れに無經驗なる同氏は遂に失敗し翌年再び前地に引き返しアンデス氏及レモン氏方に就働すること三年。大正三年歸國し翌年七月還航してミールズに到り百三十英加を現金借地して果樹を、翌年は同所に五十英加のハツプスを經營せり。昨年(七年)よりパークスに於て四十英加を借地し大いに蔬菜の栽培に奮闘しつゝ今日に及べり。

農業家 加藤喜太郎氏

海部郡佐織村大字北河田
明治九年十月生



シクツ島に於て企業したれども又復失敗、其後ローアシャーマン島、ツチ島等に轉じ大正二年オーウトドに移り居ること三ヶ年、始めて相當の利益を得たり、大正五年キャットル島に轉じ五百四十英町を現金借地し大豆、玉葱を栽培諸物價騰貴の爲め一萬弗以上の純利を得たり、氏が十數年來の苦心經營は昨年度以來其効果現れ本年も亦相當の利益を上げたりといふ。

農業家 加藤重行氏

海部郡佐織村大字落合
明治十七年一月生



氏は明治三十三年の彌生十七歳にして渡米したり、伶俐なる氏も未だ若冠にして獨立經營の器にあらず依て桑港に上陸するや直に河下ウオーナツグロージに行き郷人堀田鎌次郎氏に倚り同氏の農園に就働して其經營法を知得す、爾後堀田氏の農園を去りシターチン島に於て百四十英町の大面積にセルソリを耕作すること六年後アイルトンに移り此處に九十英町を借地し菜豆を栽培すること二ヶ年、其後方針を一變して搾乳業に従事すること六ヶ年なりしも再び意を變じて農業を經營せんとして堀田氏と謀り終にライヤア島に同氏と共同にて大農園を經營し、殊にアスパラガスを以て専門となし日夜奮闘努力今日に及び。

農業家

河瀬市右衛門氏

海部郡佐織村大字鷹場
明治三年十一月二十八日生

ムネに赴き嘗て経験あるハツブスの耕作に従事したり、大正四年エルクグロイに於て三百英町のハツブスを經營し、大正六年は九十六英町を借地し蕃茄、蒔蘿草を栽培し少なからざる利益を揚げたり、七年には同地にてハツブスの耕作を請負ひ數百人の監督をなしつゝ、大いに活動せりといふ。

氏は明治二十九年十一月渡米シ

ヤトル港に上陸し直に加州サクラ

メントに来るや方針を定めてエル

クグロイ村チャレー氏の所有せ

る八十六英町のハツブス園を經營

し、居ること六ケ年の後ホース會

社の所有に屬するフィートランド

に於て二百五十英町のハツブ園を

耕作すること四ケ年其後一度歸國

し再び米國の人となるや、キヤス

グロイ

グロイ

グロイ

グロイ

グロイ

グロイ

グロイ

グロイ

グロイ

グロイ

グロイ

グロイ

グロイ

グロイ

グロイ

グロイ

グロイ

グロイ

グロイ

グロイ

グロイ

グロイ

グロイ

グロイ

グロイ

グロイ

グロイ

グロイ

グロイ

グロイ

グロイ

グロイ

農業家

川瀬泰次郎氏

海部郡佐織村大字鷹場
明治十四年二月生

明治三十三年郷人の米國に航するものあるを聞き氏も馳せて同航に加はり桑港に上陸したるものなりといふ、氏は體格強健勞働に堪ふるを以て一介の勞働者となり明治四十五年に至るまで諸所に轉働せり、四十五年にはハツブス園を經營し其後野菜類の有望なるを察し二十英町を現在の所に借地し之れに野菜及種子物を栽培せり、抑々農業は耕地廣大なれば利益亦た大なりと言ふ能はず、耕地狭小なるも利益僅少なるに限らず、要は只其の組織の如何又は收穫の多寡市價の高低等に左右せらるゝことは米國の如き大農組織の行はるゝ國と雖も大に留意すべ所きなり、或は昨年の豐作を以て本年を律す可からず、又隣地の凶作を以て自己の耕地を悲觀すべからず、此點は故國の農業と大いに其趣きを異にす、此一事を解せる氏は僅か二十英町を其の都度々々合理的に案配するが故に毎年利すること實に數千弗なりと云ふ、氏の最愛の妻女は不幸にして昨年不歸の客となれり、常に夫婦協力相和するの性なりしに、眞に同情すべきの極ならずや、氏は勤勉家にして忍耐に富む春秋尙綽々たり、氏の將來亦大いに見るべきものあらん。

農業家 鹿島繁治氏

海部郡市江村大字木部田
明治十九年一月四日生

家嚴京三郎氏既に米國に於て農業に従事す、故に氏は明治三十六年家嚴の呼寄せによりて渡米したるものなり、桑港に上陸するや間もなくフレスノ方面に到り労働者となりて活動せり、然るに何事にもせよ企業せんには英語を解せざるべからず依て氏は翌年桑港市に出で、一意専心英語を研究すること二ケ年にして普通會話には支障なきに至りたれば再び農業に従事し果物園を經營せり、其後又セルリーを耕作し今尙ほ家嚴と共に繼續中なり。氏は嘗て妻女を故國より迎へ夫婦相和し膠漆中に一子を擧げ一家團樂の裡に銳意活躍す、昨年及今年は物價騰貴と共に農産物も亦破天荒の高値を現はしたれば巨多の利益を得たり、茲に於て故國に歸り大いになす所あらんとし本年家族一同錦衣を纏ひ懐しき故郷に歸りたり、

尙ほ氏はレッドウッド市に五英町の土地を購入し之れに蘭及カーネーション等の花卉を栽植し實弟玉吉氏をしこ之が任に當らしめたり。

農業家 鹿島玉吉氏

原籍 海部郡市江村大字木部田 明治二十八年生
現住所 P.O. BOX 151 WAINUT GROVE, CALIF., U.S.A.

鹿島玉吉氏は同姓京太郎氏の二男なり。京太郎氏は在米本縣人中の古參株にて多年各地の農園に活動し千九百三年長男繁次氏を故國より呼寄せ、繁次氏が桑港に英語を學び且つ農事を研究して後北加の農界に入りシターチン島に二百餘英加のセロリ栽培業を起し隆々振興し同業者として在米邦人中屈指の大農家となるや玉吉氏は當時業務補佐のため父兄の呼寄せする所となりて千九百十一年渡米したり。

氏が渡米後二ケ年間桑港に英語を専修して米國の事情に通ずるや鹿島家はレッドウッド市に五英加の地所を購入して別に花卉の栽培業を創む、玉吉氏は此方面の主任として同園を經營する事二ケ年、爾後は父子兄弟交代にて双方を兼業したるが家兄繁次氏が歸國するに至つて花卉栽培業は傭人に之を委し、氏はシターチン島に専心セロリ栽培業に従事することとなり現に三百英加のセロリ園を經營しつゝあり。氏や春秋漸く富み前途有望の青年なるが、殊に鹿島家の如く父子兄弟團樂して和衷協力、以て成業の繁榮を圖るものは在米同胞中稀に見る所にして又在米本縣人中の美事とも言ふを得べし。